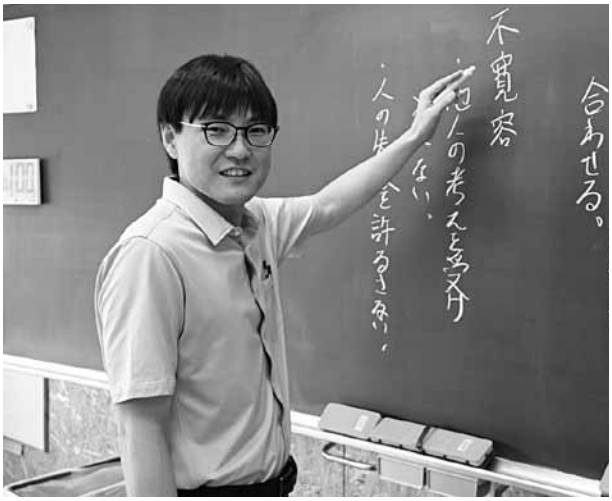
十勝管内教育研究所連絡協議会　共同研究

# 「深い学び」に向かう子どもを育む研究

## ～ＩＣＴを生かした、パフォーマンス課題を位置付けた単元計画を通して～

（２か年継続研究　２年次）

授業者
上士幌町立上士幌小学校
教諭　政野　里歩




授業者
中札内村立中札内中学校
教諭　佐藤　悠樹


Ⅰ　研究の概要
1　研究主題
2　主題設定の理由
3　研究の仮説と内容、構造図
4　研究計画
5　検証計画
6　研究の推進
7　研究の組織
8　研究推進計画

Ⅱ　研究の視点と内容
1　研究の視点
2　研究の内容

Ⅲ　授業実践（小学校）
1　単元計画
2　授業記録
3　ＩＣＴの活用場面と工夫
4　研究内容の検証
5　共同研究員による単元計画例

Ⅳ　授業実践（中学校）
1　単元計画
2　授業記録
3　ＩＣＴの活用場面と工夫
4　研究内容の検証
5　共同研究員による単元計画例

Ⅴ　研究のまとめ
1　今年度の研究の成果と課題
2　２か年の研究の成果と課題

Ⅵ　共同研究員紹介／参考・引用文献

# Ⅰ　研究の概要

## 1　研究主題

「深い学び」に向かう子どもを育む研究（２／２年次）

～ＩＣＴを生かした、パフォーマンス課題を位置付けた単元計画を通して～

## 2　主題設定の理由

今日的な課題　学習指導要領の趣旨から

学習指導要領では、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で「資質・能力」が示されている。さらに、「資質・能力」の育成のために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。その一つである「深い学び」の実現の鍵として、見方・考え方を働かせることが重要であるとされている。

また、観点別学習状況の評価については、小•中•高等学校の各教科等を通じて、「知識•技能」「思考•判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に整理された。学習評価を通して「どのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図る「指導と評価の一体化」の実現が重要である。子どもが自ら学習した意義や価値を実感するためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められている。

さらに、学習指導要領に基づき、ＧＩＧＡスクール構想の実現によるＩＣＴ環境や設備を適切に活用した学習活動の充実を図ることが重要視されている。また、「令和の日本型学校教育」を構築し、子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためにＩＣＴは、必要不可欠とされている。

北海道の現状から

北海道の子どもたちの実態としては、令和３年度全国学力・学習状況調査の結果から、令和３年度に新たに調査に追加された「前年度までに、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を計画的に取り入れました」という項目では、「よく行った」と回答している割合は、全国平均より高いものの２割にも満たない結果となり、他の項目と比較して低い傾向にある。

また、同調査の学校質問紙の結果から、「前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」の項目では、平成31年度（令和元年度）と比べて、低い傾向にあるものの、全国平均を大きく上回り、習得・活用及び探究の学習過程への意識が高いことがうかがえる。さらには、令和３年度から、ＩＣＴを活用した学習状況に関する項目が追加されるなど、ＩＣＴの効果的な活用により、学習指導要領の着実な実施が求められている。

これらのことから、知識の習得のみならず、活用や探究という学びの過程の中で、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりするなど、「深い学び」の実現に向けた指導方法の工夫改善が一層求められている。また、ＩＣＴを活用した学習活動の充実を図ることで、子どもたちに必要な力を育むことが重要であるとされている。

研究1年次の取組の成果と課題

研究１年次では、ねらいを具体化した課題設定の工夫と、到達目標を明確化した評価の充実を通して、「深い学び」に向かう子どもを育むことができるだろうと考え、パフォーマンス課題とルーブリックに焦点を当てて研究を推進した。

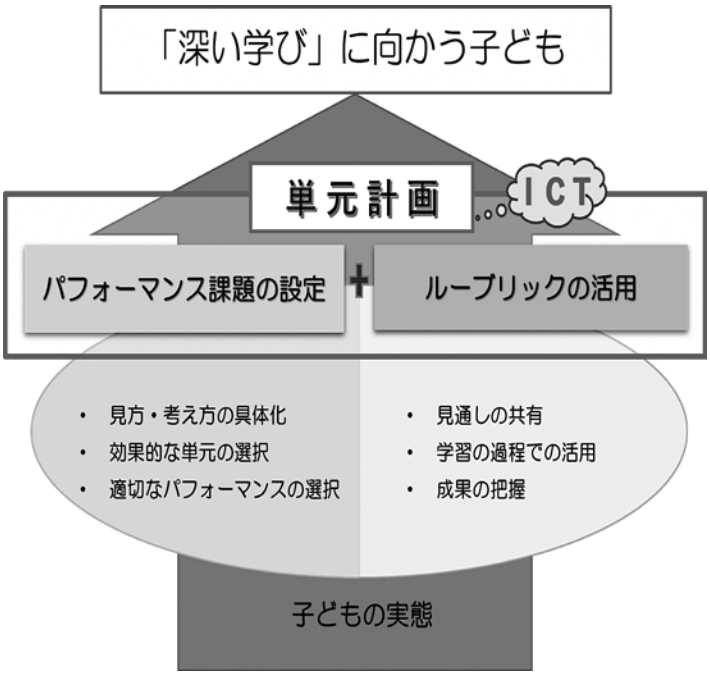
２つのグループに分かれて、それぞれ２回の授業実践を行った。その検証から、成果として、パフォーマンス課題とルーブリックを位置付けたパフォーマンス単元計画を作成し、単元全体を見通しながら課題設定の工夫や評価の充実を図ることで、知識を相互に関連付けてより深く理解しようとするなど「深い学び」に向かう子どもの姿につなげることができたことなどが挙げられた。また、パフォーマンス課題を位置付けた単元計画の作成と実践を通して共同研究員から、「深い学び」に向かう子どもの姿につなげることができただけでなく、教師にとっても単元全体を構想するなど、効果的であったという声があった。さらに、パフォーマンス課題とルーブリックを単元の導入時など早い段階に提示し、子どもと共有することで、主体的に学習に取り組む姿にもつなげることができた。

一方課題としては、教科や単元の特性、子どもの発達段階に応じてパフォーマンス課題の内容やルーブリックの活用を工夫する必要があることが挙げられた。また、評価に時間が掛かり過ぎてしまうことや学習過程でのルーブリックの活用が課題だった。そこで、子どもがパフォーマンス課題に取り組んだり、教師がパフォーマンス課題やルーブリックを提示したりする際にＩＣＴを活用することで、これらの課題の解消へつなげるとともに、より「深い学び」に向かう子どもにつなげることができたのではないだろうかと考えた。

今年度の研究の方向性

そこで、１年次の成果と課題から、パフォーマンス課題とルーブリックの活用を、幅広く実践していく必要があるだろうと考える。また、パフォーマンス課題とルーブリックを単元計画に位置付け、パフォーマンス課題の設定やルーブリックの活用においてＩＣＴを活用した工夫をすることで、「深い学び」に向かう子どもを育むことができるであろうと考え、主題を設定した。

## 3　研究の仮説と構造図




**研究主題**

「深い学び」に向かう子どもを育む研究

～ＩＣＴを生かした、パフォーマンス課題を位置付けた単元計画を通して～

**研究の仮説**

パフォーマンス課題とルーブリックを位置付けた単元計画にＩＣＴを生かすことで、「深い学び」に向かう子どもを育むことができるだろう。

**研究の内容**

(1)　パフォーマンス課題の設定

(2)　ルーブリックの活用

## 4　研究計画

### ⑴　第１年次（令和３年度）

①　研究主題、仮説、内容等の検討

②　理論研究

③　共同研究員による実践検証（小学校第３学年算数科、中学校第２学年社会科）

④　研究の中間まとめと研究紀要の刊行

### ⑵　第２年次（令和４年度）

①　研究仮説、内容、計画の修正

②　理論研究

③　共同研究員による実践検証（小学校第３学年理科、中学校第３学年国語科）

④　研究のまとめと研究紀要の刊行

## 5　検証計画

### ⑴　検証内容

#### ①　パフォーマンス課題

見方・考え方を単元の目標に合わせて明確にした上で単元に位置付け、適切なパフォーマンスが選択されたパフォーマンス課題の実施を通して、「深い学び」に向かう子どもの姿につながっていたか。

#### ②　ルーブリック

見通しを共有し、学習の過程での活用を図り、成果の把握することを通して、「深い学び」に向かう子どもの姿につながっていたか。

### ⑵　検証方法

パフォーマンス課題や結果等からの分析をする。

（子どもの見取り・授業記録・単元前後のアンケート調査・振り返りシート・作成物など）

## 6　研究の推進

○　本研究は、十勝教育研究所と管内各研究所が一体となり推進するものである。

○　管内の子どもたちの実態を踏まえた研究仮説を基に、理論研究や実践検証を進める。

○　共同研究員を２つのグループに分け、推進幹事、副幹事を選出して、協議を重ねながら実践検証をする。

○　幹事は、グループ研究の中心となり実践検証を推進し、副幹事はそれをサポートする。

○　十勝教育研究所は共同研究員と協議し研究を総括する。また、研究推進に関わる文献、資料等を提供する。

○　共同研究員による研究実践の成果を広く管内に提供する。

## 7　研究の組織

| グループ | Aグループ | Bグループ |
|---|---|---|
| 学年・教科 | 小学校第３学年・理科 | 中学校第３学年・国語科 |
| 推進幹事 | 大草　恵輔（芽室南小） | 山田　征洋（陸 別 中） |
| 推進副幹事 | 長谷川知英（広 陽 小） | 兒玉　真一（幕 別 中） |
| 授 業 者 | 政野　里歩（上士幌小） | 佐藤　悠樹（中札内中） |
| 共同研究員 | 日水　直樹（音 更 小）<br>市原　秀樹（新 得 小）<br>吉田　哲朗（清 水 小）<br>岩田　浩平（更 別 小）<br>齊藤　織斗（大 樹 小）<br>森岡　達昭（広 尾 小）<br>中田　和行（池 田 小） | 鈴木日向子（士幌町中央中）<br>梅原　翔太（鹿 追 中）<br>関谷昂二郎（豊 頃 中）<br>松林　一彦（浦 幌 中）<br>乾　　克彦（勇 足 中）<br>山田　優里（足 寄 中） |
| 担当所員 | 杉澤　　諭　　野村　知未　　白澤　大輔 | |

## 8　研究推進計画（令和４年度　２／２年次）

| 月 | 研　究　の　推　進　内　容 | 諸　　会　　議 |
|---|---|---|
| 4 | ・研究主題、研究計画の作成 | ・十勝教育研究所業務計画会議 |
| 5 | ・研究の視点、研究推進の方向性の確認 | ・十勝管内教育研究所連絡協議会総会 |
| 6 | ・共同研究員の委嘱<br>・研究概要の説明<br>・グループ分け、幹事・副幹事・授業者の決定<br>・実践研究の内容、方針等の検討 | ・第１回共同研究員会議(6/9)<br>（全体・グループ会議）<br>・第２回共同研究員会議(6/23)【Zoom】<br>（推進幹事・副幹事・授業者会議） |
| 7<br>8<br>9<br>10<br>11 | ・理論研究<br>Aグループ　Bグループ<br>実践計画<br>内容検討<br>授業実践１・２<br>各グループ<br>実践の成果と課題のまとめ<br>・理論研究・研究の経過報告（広報誌）<br>・研究紀要原稿の検討・集約 | ・第３回共同研究員会議(7/12)<br>（全体・グループ会議）<br>・第４回共同研究員会議(8/23)<br>（グループ会議）<br>・第５回共同研究員会議(8/30･9/13)<br>（授業実践１・グループ会議）<br>・第６回共同研究員会議(9/20)<br>（授業実践２・グループ会議）<br>・第７回共同研究員会議(10/6)【Zoom】<br>（グループ会議） |
| 12 | ・研究紀要の執筆<br>・ダイジェスト版の作成<br>・研究発表大会パワーポイント作成 | |
| 1 | ・研究紀要の作成<br>・ダイジェスト版の完成、刊行<br>・研究発表大会に向けての最終打合せ<br>・研究発表大会リハーサル | ・第８回共同研究員会議(1/12)【Zoom】<br>（推進幹事・副幹事・授業者会議）<br>・第９回共同研究員会議(1/24)<br>（推進幹事・副幹事・授業者会議） |
| 2 | ・研究発表大会(2/7) | |
| 3 | ・研究紀要の完成、刊行 | |

# Ⅱ　研究の視点と内容

## 1　研究の視点

### ⑴　「深い学び」に向かう子ども

学習指導要領では、「主体的･対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が推し進められている。見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返り次につなげる「主体的な学び」、子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の実現が求められている。さらに、それまでの「主体的な学び」や「対話的な学び」を通して、「深い学び」につなげていくことが求められている。

また、「何を学ぶか」という教育の内容を重視しつつ、その内容を学ぶことで子どもが「何ができるようになるか」を併せて重視する必要があり、子どもに対してどのような資質・能力の育成を目指すのかを指導のねらいとして設定していくことが重要とされている。社会で活用できる資質・能力を育成していくためには、単に知識を記憶するだけにとどまらず、「知っていること・できることをどう使うか」という思考力、判断力、表現力等の向上が求められている。身に付けた知識や技能を活用して思考することを通して、より確かなものとして習得するとともに、思考力、判断力、表現力等を養い、新たな学びに向かったり、学びを人生や社会に生かそうとしたりする力を高めていくことができるような学びの深まりが大切になってくると考えられている。

学習指導要領解説総則編では、深い学びの視点を以下のように示している。

「深い学び」

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

本研究における「深い学び」に向かう子ども

見方・考え方を働かせながら

① 知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿
② 情報を精査して考えを形成しようとする姿
③ 問題を見いだして解決策を考えようとする姿
④ 思いや考えを基に創造しようとする姿

### ⑵　パフォーマンス課題を位置付けた単元計画

学習指導要領では、「深い学び」に向かう子どもの姿は、一単位時間の授業の中で全てが実現されるものではないため、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、見通しを立てたり振り返ったりする場面や、学びの深まりをつくり出すための場面などを、どう組み立てるかという授業改善を進めることが重要であるとされている。

本研究におけるパフォーマンス課題を位置付けた単元計画

本研究では、単元で期待する「深い学び」に向かう子どもの姿、目標と観点別評価規準、単元で働かせる見方・考え方、パフォーマンス課題とルーブリック、ＩＣＴを生かした場面の設定などを明確にし、指導に生かすものとして活用する。

### ①　パフォーマンス課題

パフォーマンス課題とは、「知識・技能」のようにペーパーテストだけでは評価が難しい、習得した知識及び技能を活用したり、応用したり、統合したりすることを求める課題である。また、「子どもの思考を可視化する課題」とも言われている。考えを言語化したり、記述したりするなど様々な設定をすることで、思考力、判断力、表現力等が高まる学習活動であるといえる。特に重要な概念やプロセスを何らかの問題解決場面で使いこなせるレベルにまで深く理解し、身に付けているかを確認するには、パフォーマンス課題を活用する必要があるだろう。

本研究におけるパフォーマンス課題
- ○　各教科による見方・考え方を働かせる課題
- ○　習得した知識及び技能を活用したり、応用したりする課題
- ○　「思考・判断・表現」を評価するための課題

### ②　ルーブリック

ルーブリックとは「成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語（評価規準）からなる評価基準表」のことである。この基準を基に評価を行うことで、ペーパーテストでは測り切れなかった姿を見取ることができるなど評価の充実を図ることにつながると考えられる。

ペーパーテストで評価可能な事柄に対して無理にルーブリックを使う必要はなく、レポート課題などの「思考・判断・表現」、実技テストなどの「技能」に対して必要に応じて、活用しやすい観点で使うことができる。決して、全ての観点を同時に評価しなければならないものではないと考えられる。評価基準については、ねらいに合わせて３段階程度設定し、記述する。基準については、全員の達成を目指すＢ基準を設定するが、課題に対する子どもの願いをルーブリックに生かしたり、子どもの実態に応じて柔軟に対応したりすることも必要とされている。また、子どもによる自己評価や相互評価を可能とするため、評価の充実を図ることにつながるだろう。なお、記述内容については、対象となる子どもが理解できることや、これから学習する内容が明らかになりすぎないことなど、工夫が必要である。

本研究におけるルーブリック
- ○　パフォーマンス課題を評価するときに用いる数レベル程度の評価基準表
- ○　単元や内容の導入時など早い段階に提示し、子どもと共有するもの
- ○　子どもが学習の過程や終末において、成果の把握に役立てるもの

## ⑶　ＩＣＴ

ＧＩＧＡスクール構想では、「１人１台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する」ことがねらいとされている。１人１台端末の整備が急速に進んだ今、これまでの実践とＩＣＴを最適に組み合わせながら、教科の学びを深め、教科の学びの本質に迫ることが一層求められている。

本研究においても、パフォーマンス課題の設定やルーブリックの活用など単元においてＩＣＴを効果的に活用することで、より「深い学び」に向かう子どもを育むことができるだろうと考える。

## 2　研究の内容

### (1)　パフォーマンス課題の設定

#### ①　見方・考え方の具体化

学習指導要領では、見方・考え方を「『どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか』というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方」であり、「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの」としている。深い学びの視点に関して、見方・考え方が各教科等の学びの深まりの鍵となる。教師が子どもの思考を想定しながら課題や問いにおいて着目する視点や考える方向性を焦点化することで、「深い学び」に向かう子どもの姿につなげることができるだろうと考える。

そのため、本研究では各教科等の見方・考え方を単元の目標に合わせて具体化し、パフォーマンス課題の設定の際に位置付け、充実を図るようにする。

| 社会的事象の地理的な見方・考え方（地理的分野） |
|---|
| 社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。 |

↓

| 単元の目標（「思考・判断・表現」のみ） | |
|---|---|
| 中部地方において、産業の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目し、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 | |
| 単元で働かせる見方 | 考え方 |
| 産業の成立条件を、地域の広がりや環境要因、人々の対応などに着目し | 他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察する。 |

【社会科における見方・考え方の具体化例】

#### ②　効果的な単元の選択

思考力、判断力、表現力等を見取るからといって、全ての単元でパフォーマンス課題を実施しなければならないわけではないだろう。単元や題材など内容や時間のまとまりの「いつ」「どのような」パフォーマンス課題を設定するかは、子どもたちが身に付ける力が何かをよく考え、思考力、判断力、表現力等がより表出されることが期待できる単元等を見極め、決める必要があるだろう。少なくとも数時間を掛けて思考を練ったり、何度か繰り返し取り組んで質の向上を図ったりすることが必要となるため、１・２時間程度の小単元はパフォーマンス課題に適さないと言えるだろう。場合によっては、複数の単元を組み合わせて設定することも考えられる。教科の特性に応じながら、単元のねらいに加え、効果的な単元や時期、回数を年間の中で見通し、効果的な単元を選択してパフォーマンス課題を設定する必要がある。

#### ③　適切なパフォーマンスの選択

パフォーマンス課題は、習得した知識及び技能を活用したり、応用したり、統合したりする課題であることから、言語による表現のみを求めるものであると誤解されがちである。彫刻や演奏などの技術的な表現や、サッカーの試合などの身体的な表現を求めるような課題も考えられる。さらには、レポートや絵画などまとまりのある完成作品を求めるものや、プレゼンテーションや実験など実演を求めるものもある。

パフォーマンスの主な選択については、以下のようなものが考えられる。

| | |
|---|---|
| ○　エッセイ、小論文、論説文 | ○　朗読、口頭発表、プレゼンテーション |
| ○　研究レポート、研究論文 | ○　グループでの話合い、ディベート |
| ○　実験レポート、観察記録 | ○　実験計画・実施・報告 |
| ○　物語、脚本、詩、曲、絵画 | ○　演劇、ダンス、曲の演奏 |
| ○　ワークシート、歴史新聞 | ○　スポーツの試合 |

なお、上記を例に教科の特性や見方・考え方により、具体的な方法は異なってくるだろう。どのようなパフォーマンス課題においても、単元のねらいを明確にし、適切なパフォーマンスの選択をしていく必要がある。

### ⑵　ルーブリックの活用

#### ①　見通しの共有

ルーブリックが単元導入時など早い段階に提示されることで、これからの学習で何を学び、単元の終わりにはどのような力を身に付けていくのかという学習に対する見通しをもつことができる。授業の目標が明確になることで、身に付けるべき基礎的な知識と求められる応用力についてのイメージをもつことができ、次の段階へと学びを深めることが期待できる。到達目標を明確にすることで、「深い学び」へ向かう子どもの姿につながるであろう。

さらに、学習評価においては妥当性や信頼性を高めることが重要であるとされており、評価の具体を事前に子どもと共有する場面を設けることは、評価の充実を図ることにもつながると考える。

#### ②　学習の過程での活用

ルーブリックを単元導入時など早い段階に提示すると、単元の途中やパフォーマンス課題の実施中など学習のどの過程においても、子どもが評価基準と現状を照らし合わせることで、「何ができているか」や「何が不足しているか」を確認することができるだろう。例えば、パフォーマンス課題実施前の学習の過程での把握の場合、授業の終末において、ルーブリックを活用した振り返りの場面を設定することで、パフォーマンス課題を取り組むために必要な知識や技能を確認することができるであろう。さらには、パフォーマンス課題によっては、パフォーマンス課題に取り組んでいる途中にも、自己評価や相互評価などルーブリックを活用する場面を設定することで、より学びを深めることができるのではないかと考える。

#### ③　成果の把握

ルーブリックを活用し、単元の終わりやパフォーマンス課題の実施後には、子ども自身で「何ができるようになったか」と学びを実感することができるだろう。

評価者からの評価を受け取った際には、ルーブリックと照らし合わせながら、自己の成果や課題の把握に役立てることができる。どのような基準で評価されたかを確認することができるため、評価の信頼性・妥当性が高まることにつながるであろう。また、子どもの励みになったり、次の目標の設定につながったりする効果をもたらすと言われている。さらに、子どもや保護者に対して、どのような基準で評価したのかを具体的に説明する材料となり、評価の信頼性・妥当性を高めることにつなげられると考える。

## ⑶　資料

### ①　単元計画

| 教科名 | | 学　年 | |
|---|---|---|---|
| 単元名 | ＊単元や題材など内容や時間のまとまりで作成する。 | 児童・生徒数 | |
| | | 授業者 | |

**1「深い学び」に向かう子どもの姿**

＊単元の目標に合わせ、「深い学び」に向かう子どもの姿を選択し、明確にする。

**2　単元の目標と観点別評価規準**

＊学習指導要領に基づきながら、各学校の教育課程や単元の内容に合わせ、育成を目指す資質・能力を明確にする。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| | | |

＊単元の目標に合わせ、３つの観点での評価規準を設定する。

**3　単元で働かせる見方・考え方**

＊各教科の見方・考え方を、単元の内容に合わせ、明確にする。

**4　パフォーマンス課題（〇〇）←選択したパフォーマンスの種類を明記する**

＊単元の「思考・判断・表現」を評価するために、見方・考え方を働かせ、習得した知識及び技能を活用したり、応用したりする課題を設定する。
＊パフォーマンス課題の実施方法として、パフォーマンスの種類を明確にする。

**5　ルーブリック**

| | |
|---|---|
| | |

＊パフォーマンス課題を評価するときに用いる数レベル程度の評価基準を明確にする。

**6　ＩＣＴの活用場面と工夫**

＊「深い学び」に向かうためのＩＣＴの活用場面と工夫について明確にする。

| ７　単元の指導と評価の計画（全〇時間） | | |
|---|---|---|
| 時間 | 学習課題（◆）　主な学習活動（〇） | 評価の観点【 】評価規準 |
| 1 | ★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示<br>＊学習課題は、単元の学習課題を解決することを基盤に、本時における学習課題を設定する。<br>＊単元の内容等に応じて、単元の導入時など早い段階にパフォーマンス課題とルーブリックを提示する場面を設定する。 | ＊「２　単元の目標と観点別評価規準」に基づき評価の観点と評価規準を設定し、目標との整合性が図られているか留意する。<br>＊単位時間の評価項目は１～２つを想定する。 |
| | | |
| | ★ルーブリックの活用<br>＊パフォーマンス課題につながる学習活動など必要に応じて、ルーブリックを活用し、身に付けた力や今後身に付けていきたい力などについて確認したり、今後の見通しをもったりすることにつなげる。 | |
| | ★ＩＣＴの活用<br>＊「深い学び」に向かうためのＩＣＴの活用場面を明確にする。 | |
| | ★パフォーマンス課題（〇〇）<br>＊パフォーマンス課題を実施する場面を設定する。ルーブリックを活用し、目指す姿を明確にしたり、成果の把握をしたりする。 | 【思・判・表】 |

＊当研究所のホームページから資料をダウンロードしていただくことができます。

# Ⅲ　授業実践（小学校）

## 1　単元計画

| 教科名 | 小学校　理科 | 学　年 | 3学年 |
|---|---|---|---|
| 単元名 | ものの重さ | 児童数 | 19名 |
| | | 授業者 | 政野　里歩 |

**1「深い学び」に向かう子どもの姿**

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿

③　問題を見いだして解決策を考えようとする姿

**2　単元の目標と観点別評価規準**

・物の重さについて、物の形や体積と重さに着目し、それらを比較しながら調べる活動を通して、形を変えた物や体積が同じ物の重さについての理解や実験に関する技能を身に付け、物の形や体積と重さとの関係について追究する中で差異点や共通点を基に問題を見いだして表現する。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・形を変えた物や体積が同じ物の重さを理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行いその結果を分かりやすく記録している。 | ・物の重さについて、差異点や共通点を基に問題を見いだし、表現している。 | ・物の重さについて、進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |

**3　単元で働かせる見方・考え方**

物の性質について、形は変わっても重さは変わらないことや体積が同じでも物の重さが異なることがあることに着目し、比較したり、関連付けたりしながら考える。

**4　パフォーマンス課題（ワークシート）**

Ｂ・Ｃ・Ｄの重さは、Ａの重さに比べてどうですか。その理由も答えましょう。

Ａ

ボールを持って体重計の上に立っている。

Ｂ

ボールを持って体重計の上にしゃがんでいる。

Ｃ

ボールを体重計の上に置いて立っている。

Ｄ

メディシンボールを持って体重計の上に立っている。

**5　ルーブリック**

| | |
|---|---|
| Ａ | 実験写真の同じところや違うところに注目して、実験結果や結論（「形を変えても、ものの重さは変わらない」や「体積が同じでも、種類が違うと、ものの重さは違う」）を根拠にしながら、Ｂ・Ｃ・Ｄの重さはＡの重さに比べてどうか説明している。 |
| Ｂ | 実験結果や結論を根拠にしながら、Ｂ・Ｃ・Ｄの重さはＡの重さに比べてどうか説明している。 |
| Ｃ | Ｂの基準を満たしていない（当てずっぽうや、結論を根拠にしていないなど）。 |

**6　ＩＣＴの活用の場面と工夫**

パフォーマンス課題の提示時に、子どもがタブレット端末で上記の写真を見ながら、予想を立てる。２つの実験（３・５時間目）のあとに、パフォーマンス課題の答えを予想する。友達と考えを比較したり、単元を通して自分の考えを振り返ったりすることにつなげる。

| ７　単元の指導と評価の計画（全７時間） | | |
|---|---|---|
| 時間 | 学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 評価の観点【 】評価規準 |
| 1 | ◆形を変えた粘土は、どちらの方が重いか考えよう。<br>**★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示**<br>○　パフォーマンス課題を確認し、単元を見通す。<br>○　元の形の粘土と形を変えた粘土を持って、重さを比べる。<br>**★ＩＣＴの活用**（Jamboard） | 【思・判・表】<br>・形を変えたときの物の重さについて、差異点や共通点を基に問題を見いだして表現している。（観察）<br>【態度】<br>・物の重さに着目し、問題を見いだそうとしている。（観察） |
| 2 | ◆形を変えると、物の重さは変わるのだろうか。<br>○　キッチンスケールを使い、元の形の粘土と形を変えた粘土の重さを比べる。 | 【知・技】<br>・器具を正しく扱いながら、物の形を変える前後で重さを確かめ、その結果を分かりやすく記録している。（観察・ワークシート）<br>【態度】<br>・形を変えたときの物の重さについて興味をもち、他者と関わりながら、進んで問題を解決しようとしている。（観察・ワークシート） |
| 3 | ◆形を変えると、物の重さは変わるのだろうか。<br>○　キッチンスケールを使い、元の形の粘土と形を変えた粘土の重さを比べた実験結果を基に考察し、結論を導き出す。<br>○　予想を立てる。<br>**★ＩＣＴの活用**（スライド） | 【知・技】<br>・形を変えても物の重さは変わらないことを理解している。（ワークシート）<br>【思・判・表】<br>・形を変えたときの物の重さについて、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現している。（ワークシート）<br>【態度】<br>・学んだことを、身の回りの事例に当てはめて考えようとしている。（ワークシート） |
| 4 | ◆体積が同じでも種類が違うと物の重さは違うのだろうか。<br>○　体積が同じで種類が異なる物の重さを天秤で比べた様子を見て、重さについて話し合う。 | 【思・判・表】<br>・体積が同じで種類が異なる物の重さについて、差異点や共通点を基に問題を見いだして表現している。（観察） |
| 5 | ◆体積が同じで種類が違うものの重さを調べよう。<br>○　キッチンスケールを使い、体積が同じで、種類が違うものの重さを比べる。 | 【知・技】<br>・器具を正しく扱いながら、体積が同じで種類が異なる物の重さを確かめ、その結果を分かりやすく記録している。（観察・ワークシート）<br>【態度】<br>・体積が同じで種類が異なる物の重さについて興味をもち、他者と関わりながら、進んで問題を解決しようとしている。（観察） |
| 6 | ◆体積が同じで種類が違うものの重さを調べよう。<br>○　キッチンスケールを使い、体積が同じで、種類が違うものの重さを比べた実験結果を基に考察し、結論を導き出す。<br>○　予想を立てる。<br>**★ＩＣＴの活用**（スライド） | 【知・技】<br>・体積が同じでも種類が異なると物の重さが違うことを理解している。（ワークシート）<br>【思・判・表】<br>・体積が同じで種類が異なる物の重さについて、実験の結果を基に考察し、その考えを表現している。（ワークシート）<br>【態度】<br>・学んだことを、身の回りの事例に当てはめて考えようとしている。（ワークシート） |
| 7 | ◆Ｂ・Ｃ・Ｄの重さは、Ａの重さに比べてどうですか。その理由も答えましょう。<br>**★パフォーマンス課題（ワークシート）**<br>**★ルーブリックの活用**<br>○　Ｃの問題を参考にしながら、ＢとＤの重さについて、Ａの重さの関係とその理由を答える。 | 【思・判・表】<br>・物の重さについて、差異点や共通点を基に問題を見いだし、表現している。（ワークシート） |

## 2　授業記録

| ８　細案　授業実践　（１／７時） | |
|---|---|
| 本時の目標 | 評価規準 |
| 形を変えた粘土は、どちらの方が重いか考える。 | 【思・判・表】<br>・形を変えたときの物の重さについて、差異点や共通点を基に問題を見いだして表現している。（観察）<br>【態度】<br>・物の重さに着目し、問題を見いだそうとしている。（観察） |
| 具体的な子どもの姿<br>学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 教師の手立て |

見通す（単元）

**○　「ものの重さクイズ」をする。**

問１　象とあり
問２　○○先生と政野先生の机

・身近なものの「重さ」や「大きさ」について考えることで、単元で学習する内容の通しをもたせる。

象だと思う！

象の方が大きいし、たくさん食べてそうだから。

象とありでは、どちらが重いでしょうか。

理由は？

**○　パフォーマンス課題を確認する。**

・重さクイズのように、Ａの写真とＢ・Ｃ・Ｄの写真を比較し、違いに気付いたり、重さの比較を予想したりできるようにする。

Ｂ・Ｃ・Ｄの重さは、Ａの重さにくらべてどうですか。

Ａ

ボールを持って体重計の上に立っている。

Ｂ

ボールを持って体重計の上にしゃがんでいる。

Ｃ

ボールを体重計の上に置いて立っている。

Ｄ

メディシンボールを持って体重計の上に立っている。

Ａの写真と比べてどうかな。

しゃがんでいる。

Ｂの方が重いと思う！

同じじゃないかな。

見通す（単元）

○　タブレットを使って予想し、全体で共有する。

「理由を説明してください」と言われたら、どんな風に説明したらいいかな。

ＩＣＴの活用

- Jamboard で予想を立て、友達の考えと比較する。
- 説明の仕方を考えることができるようにする。
- パフォーマンス課題とのつながりを伝える。

○　ルーブリックを確認しながら、単元の見通しをもつ。

【ルーブリック】
◎(A)…写真の同じところや違うところに注目して、単元で学習した実験の結果や結論を基に答える。
○(B)…単元で学習した実験の結果や結論を基に答える。
△(C)…当てずっぽうで答える。

実験で理由が分かるんだな。

○　本時の課題を確認する。

形を変えた粘土は、どちらの方が重いか考えよう。

○　問題の確認と課題について予想を立てる。

問題
形を変えると、物の重さは変わるのだろうか。

- 「そのまま」「ぺたんこ」「丸」の３種類に形を変えたときの重さの違いを予想する。

探究する

○　実際に形を変え、粘土の重さを比べる。

丸が一番重くて、ぺたんこが一番軽い。

同じ重さのような気がする。でも、はっきりと分からないなぁ…。

○　学習問題を見いだす。

どうしたら、これが一番重いとか、確実な結果が分かるかな？

次回から、はかりなどを使って物の重さを調べていきましょう。

量ってみる。

## ８　細案　授業実践　（７／７時）

| 本時の目標 | 評価規準 |
|---|---|
| 図のように重さを量ったとき、重さはどうなるか説明する。 | 【思・判・表】<br>・物の重さについて、差異点や共通点を基に問題を見いだし、表現している。（ワークシート） |

| 具体的な子どもの姿<br>学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 教師の手立て |
|---|---|

見通す

**○　単元で学習した内容を振り返る。**

・２つの実験の内容と結論について簡単に触れることで、既習内容を想起できるようにする。

どんな実験をやったかな。

粘土をどうしたの？

ものの重さは？

粘土を使った。

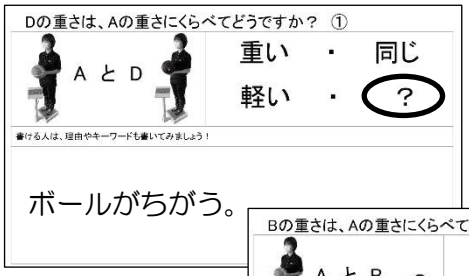
形を変えて重さを量った。

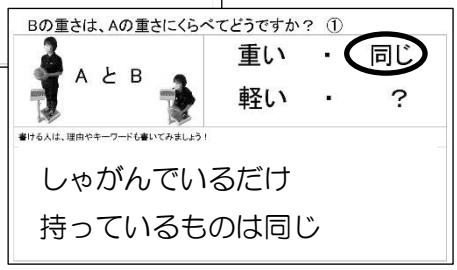
変わらなかった。

**○　前時までの予想を振り返る。**

ＩＣＴの活用

・スライドを活用した、単元の冒頭に立てた予想と実験の後に立てた予想を振り返りながら、本時の課題に取り組めるようにする。



探究する

**○　パフォーマンス課題とルーブリックについて再確認する。**

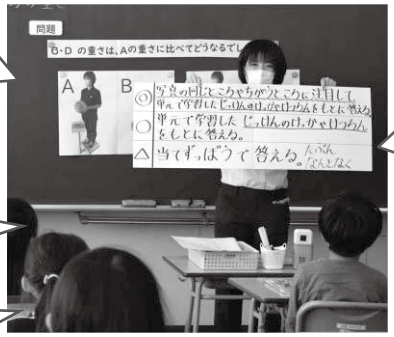
・練習問題として、Ｃの写真とＡの写真の比較について全体で取り組み、解答の仕方を確認する。

◆　Ｂ・Ｃ・Ｄの重さは、Ａの重さにくらべてどうでしょうか。

Ｃ「はボールを置いているから」という理由だとどうですか。

△だと思う。

学習した内容じゃない。




そうだね。「◎」になるためには、写真の同じところや違うところに注目して、単元で学習した実験の結果や結論を基に答えよう。

探究する

○　パフォーマンス課題に取り組む。

ＩＣＴの活用

・スライドの予想シートやルーブリックを確認しながら、解答を考えるように助言する。

Ａの写真との違いはボールの種類だな。
実験の結果から考えると…。

２回目の実験のあとの予想で、ボールの種類が違うことに気付いていたんだった！

・机間巡視しながら、今までの実験の様子を振り返る「ヒントコーナー」の活用の声掛けをする。

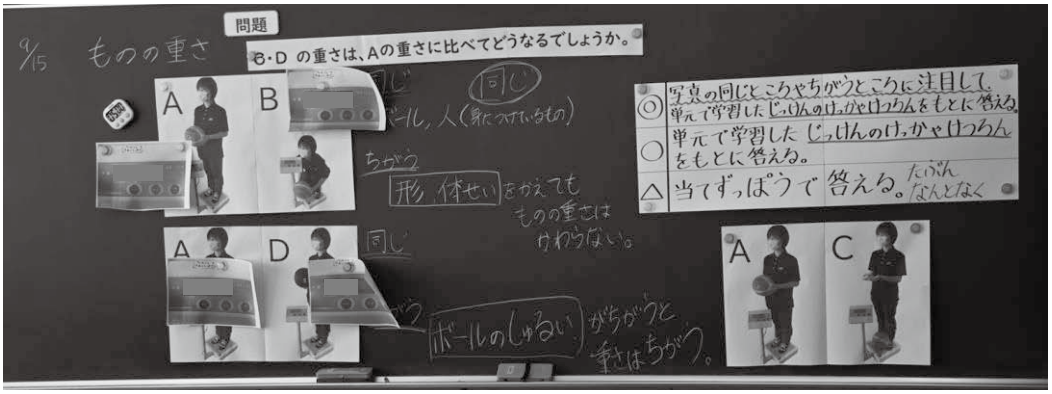
違いや実験の理由も書いたけど、これでいいのかな。

あっ、そうだ！そうだ！だから…。

振り返る

○　パフォーマンス課題について、考えたことを発表し合い、交流する。

・Ｂ・Ｄの重さは、Ａの重さに比べてどうなるかを、理由も含めて全体で交流することで、理解を深める。




○　振り返る。

・単元のパフォーマンス課題に対しての自己の学習を振り返ることができるよう、教科書やノートを確認するなど振り返りの視点を提示する。

【本時の振り返りシート】

・パフォーマンス課題は、最初は難しかったけど、最後は今まで習ったことを使ったら簡単にできた。
・よく考えて、書くことができた。

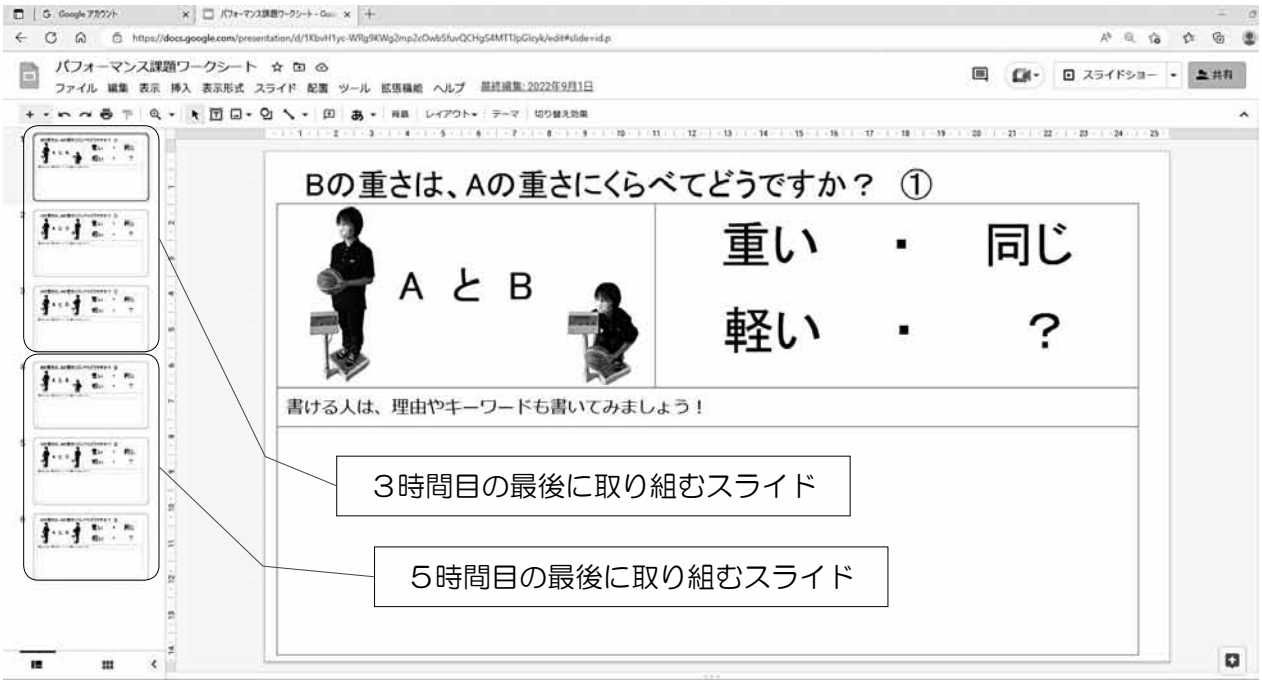
## ３　ＩＣＴの活用場面と工夫

### (1)　Google Jamboard

今回の単元では、１時間目にパフォーマンス課題を提示し、子どもたちに回答を予想させた。その際に、各自のタブレット端末から、Jamboardを活用して、自分の予想を表示した。理由や根拠もなく「当てずっぽう」に予想する子どももいると考え、Jamboardを全体で共有し、友達の考えを確認したり、比較したりする機会を設けた。自分の予想との違いや、友達の予想の理由について考えたり、予想の正当性について考えたりすることをねらいとした。

### (2)　Google スライド

Googleスライドを活用して、パフォーマンス課題について予想と理由をメモできるワークシートを作成し、３時間目と５時間目の実験の後に記入した。単元の導入時に立てた予想は、根拠が曖昧だったり、理由がなかったりしている子どもが多いことから、パフォーマンス課題に取り組むまでのスモールステップとして取り入れた。実験後に再度予想する場面を設定することで、以前のワークシートと比較しながら、自分の予想や理由の根拠を見付けようとしたり、根拠をもって理由を書き留めたりすることができると考えた。また、単元の最後にパフォーマンス課題を実施する際にも、単元を通して自分の考えがどうであったのかを振り返ることで、考えが深まったり、学びを実感したりすることをねらいとした。



## 4　研究内容の検証

### (1)　子どもの見取り・聞き取り

#### ①　授業実践１

○　授業中の様子より

Jamboardを使ってパフォーマンス課題の予想を立て、全体で共有したことで、単元の最後にどんなことをするかというイメージをもつことができた。また、ルーブリックの提示により、パフォーマンス課題に取り組む際には、自分の考えに対して理由を説明することや、実験結果や結論を根拠とする必要があることを理解できていた。

○　インタビューより

これから、どんな学習をするのですか。

今までと違うところは何ですか。

これから、どんなことが分かるといいのですか。

ものの重さについて。

これから実験をして、最後に理由を書くところ。

ものの形や大きさの違いかな。重さは同じなのかどうか。

#### ②　授業実践２

○　授業中の様子より

ＩＣＴを活用したワークシートを使って、自分の今までの予想とその理由について振り返りながら、パフォーマンス課題に取り組んでいた。また、パフォーマンス課題に取り組む前に、再度ルーブリックについて確認し、黒板に掲示しておいたことで、ルーブリックを確認しながら、課題に取り組む様子が見られた。

○　インタビューより

パフォーマンス課題はうまくできましたか。

難しかったけど、楽しくて、いろんなことが分かった。

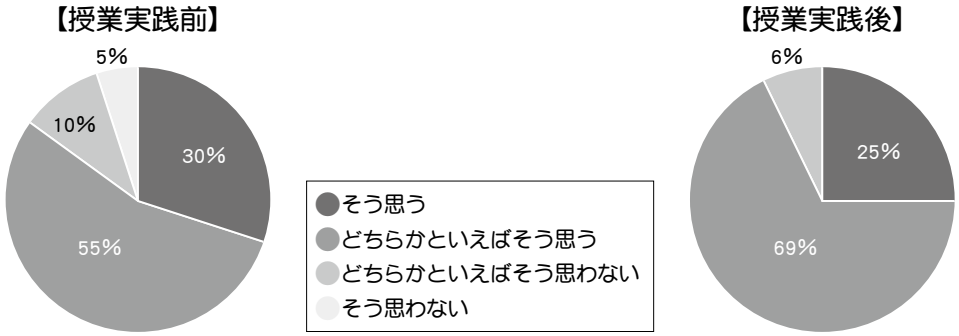
予想を立てることは、パフォーマンス課題の取り組みやすさにつながったと思いますか。

はい。今日もスライドに書いてあることを基にして、まとめの課題に取り組むことができました。

パフォーマンス課題とルーブリックを単元の１時間目に提示したことで、単元の見通しをもつことができ、意欲的に学習する姿につながった。また、ＩＣＴを活用したシートで予想を立てる活動を繰り返し取り組んだことで、単元の途中においても１単位時間の学習内容とパフォーマンス課題とのつながりを考えることができていた。

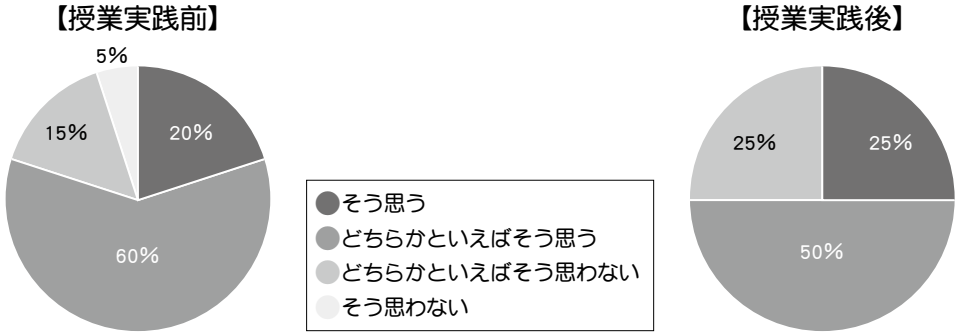
## ⑵　授業実践前後のアンケート結果から

理科の学習では、学習の途中や終わりに、それまでに自分ができるようになったことを、確かめることができていた。




アンケートの結果から、「そう思う」と回答した子どもが若干減少したものの、ほぼ肯定的な回答をしている。このことから、パフォーマンス課題と同様の問題を繰り返し取り組む場を設設定したことにより、子どもが今まで学習してきた知識を相互に関連付けてより深く理解しようとしたり、問題を見いだして解決策を考えようとしたりする深い学びに向かう子どもの姿へつながったのではないかと考察できる。

理科の学習では、学習してきたことを生かして、説明することができた。




アンケートの結果から、「そう思う」と回答した子どもが増えた。このことから、今まで学習してきた知識を相互に関連付け、より深く理解しようと取り組んだ様子が伺える。ただし、否定的な回答をしている子どもも増えたことから、自分の考えを文章でまとめる難しさを感じていたのではないだろうかと推察できる。

## ⑶　単元を振り返っての感想

○　最初にパフォーマンス課題を見たときは、今と意見が違ったけど、物の重さの学習でいろんなことを学んだんだと思いました。

○　最初の課題をしたときはよく分からなかったけれど、体積の学習や、粘土の学習を学んで、最後のパフォーマンス課題が分かりました。

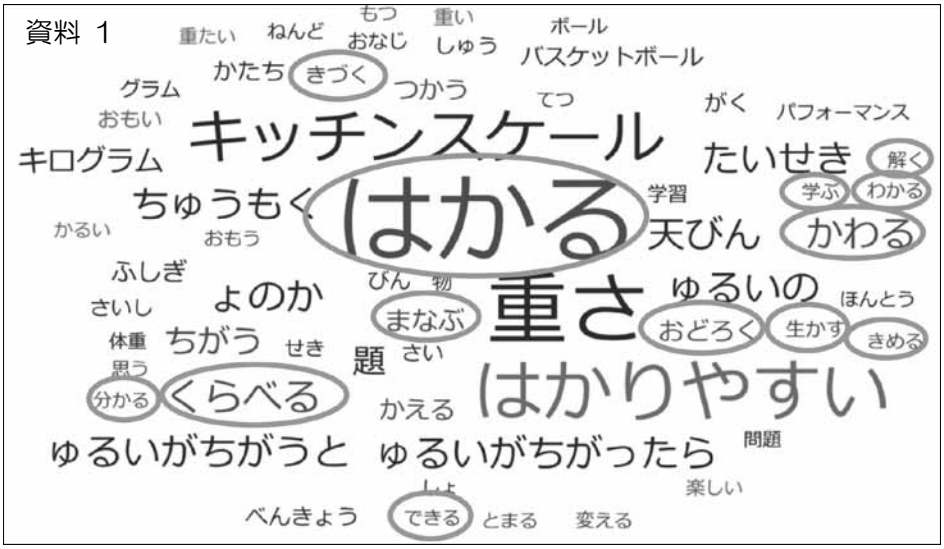
○　他の物もたくさん量ってみたいと思った。形を変えても、物の重さは変わらないことが分かった。上皿天びんでの重さ比べも楽しかった。

○　形が同じで種類が違うと、ものの重さは違うということが分かりました。

○　最初は形を変えたら重さが違うと思っていたけど、同じだったのが驚いた。

○　学習を生かして問題を解くことができたと思います。

○　自分は「これ」とはっきりと決めることができた。

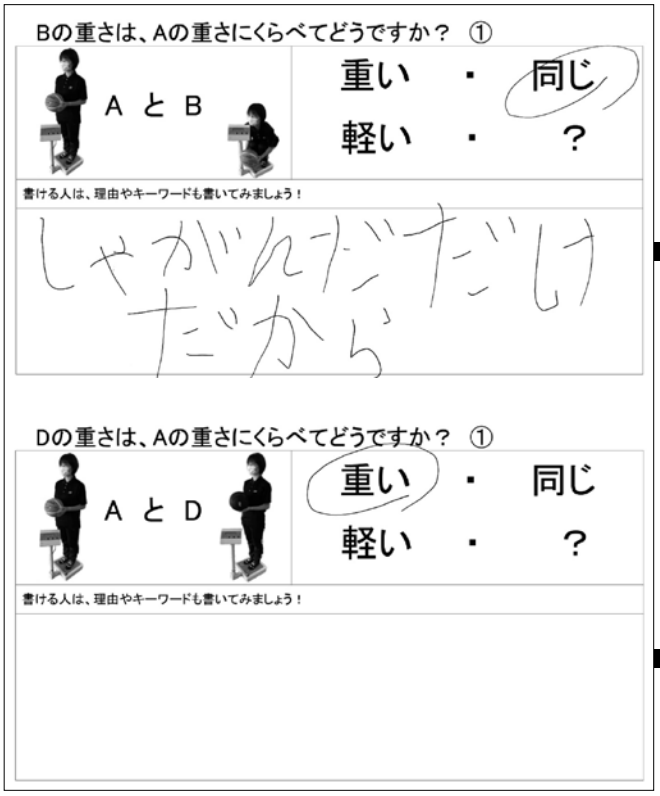



資料１はアンケートの感想から、出現頻度の高い言葉を大きく表示したものである。今回の単元の中核になる「量る」という言葉の出現率が一番高い。それと同時に、動詞に着目すると「比べる」や「変わる」という学習内容に関わる言葉と、「学ぶ」「気付く」「分かる」「驚く」「生かす」など単元の学習を通して感じたことを表す言葉が表出された。子どもたちの感想からも、今単元を通して、深く理解しようとする姿につながったと捉えることができる。

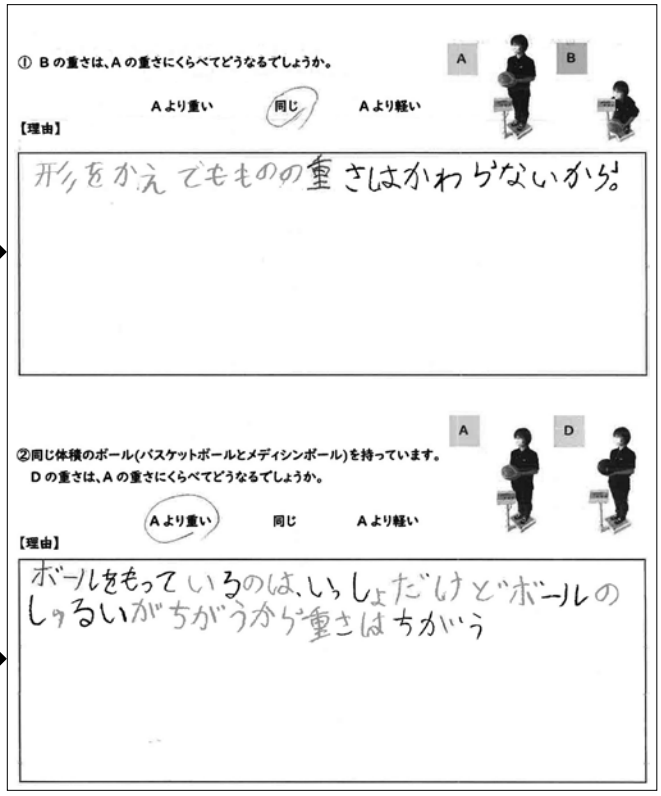
### ⑷　ワークシートなどから

これは、ある子どもの３時間目の実験後の予想シートとパフォーマンス課題の回答である。３時間目終了後の予想シートでは、写真を見て書いただけ、もしくは何も書いていないのに対し、パフォーマンス課題に取り組んだ際には、学習したことを生かしたことが伺える記述内容になっている。

【３時間目の予想シート】




【パフォーマンス課題のワークシート】



## 4　共同研究員による単元計画例

### (1)　単元計画について

単元計画例（小学校）は十勝教育研究所のホームページからダウンロードすることができます。（https://www.tokyoken.net）

| 研究所名 | 共同研究員 | 学年 | 教　科 | 単元名 | ページ |
|---|---|---|---|---|---|
| 音更町教育研究所 | 日水　直樹 | ２年 | 体育科 | 器械•器具を使っての運動遊び（マットを使った運動遊び） | P22 |
| 新得町教育研究所 | 市原　秀樹 | ５年 | 外国語科 | Lesson 5　I can run fast. | P23 |
| 清水町教育研究所 | 吉田　哲朗 | ５年 | 音楽科 | オーケストラのみりょく | P23 |
| 更別村教育研究所 | 岩田　浩平 | ４年 | 図画工作科 | コロコロガーレ（コロコロワールド） | P24 |
| 大樹町教育研究所 | 齊藤　織斗 | ５年 | 体育科 | ゴール型ゲーム（バスケットボール） | P24 |
| 広尾町教育研究所 | 森岡　達昭 | ５年 | 理　科 | ふりこ | P25 |
| 池田町教育研究所 | 中田　和行 | ６年 | 社会科 | 戦国の世から天下統一へ | P25 |

| 教科名 | 小学校　体育科 | 学　年 | ２学年 |
|---|---|---|---|
| 単元名 | 器械・器具を使っての運動遊び<br>（マットを使った運動遊び） | 児童数 | 65名 |
| | | 授業者 | 日水　直樹 |

1「深い学び」に向かう子どもの姿

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿

④　思いや考えを基に想像しようとする姿

2　単元の目標と観点別評価規準

・マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、マットに背中や腹などを着けていろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたりするなどして遊ぶことができるようにする。

・マットを使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。

・マットを使った運動遊びに進んで取り組み、順番や決まりを守り、誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・マットを使った運動遊びの行い方を知っている。<br>・マットに背中や腹などを着けていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。<br>・手や背中で支えて体の保持や壁登り逆立ちをして遊ぶことができる。 | ・マットを使った簡単な遊び方を工夫している。<br>・腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きの中から、動物の動きを選んでいる。<br>・友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。 | ・マットを使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。<br>・順番や決まりを守り誰とでも仲よく運動しようとしている。<br>・場の安全に気を付けている。 |

3　単元で働かせる見方・考え方

回転、支持、逆さの姿勢といったマットを使った運動遊びの特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付ける。

4　**パフォーマンス課題**（発表・プリント）

グループで発表会をしよう！

これまでの学習の中で楽しかったマット遊びを発表し、友達の発表のよいところを見付け伝えよう。

※　ゆりかご・背支持倒立・壁登り逆立ち・動物歩き（イヌ、クマ、アザラシ、ウサギ）・前転がり・後ろ転がりなど

5　ルーブリック

| | |
|---|---|
| A | 簡単な遊び方を工夫するとともに、自分の動きをよりよくする方法を考えながら遊び、手の付き方や真っすぐに転がっているなど、友達のよい動きを擬態語や身振りなど多様な表現を用いて具体的に伝えたり、プリントに書いたりすることができる。 |
| B | 簡単な遊び方を工夫するとともに、自分がしたい動きを選んで遊び、友達のよい動きを見付け伝えたり、プリントに書いたりすることができる。 |
| C | Ｂ基準に達していない。 |

6　**ＩＣＴの活用の場面と工夫**

マットを使った遊び時に、タブレット端末でタイムシフトカメラを使用し、自分の運動遊びの様子を見られるようにすることで、客観的にどのように運動遊びをしているのかが分かるようにする。

7　単元の指導と評価の計画（全７時間）

| 時間 | 学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 評価の観点【 】評価規準 |
|---|---|---|
| 1 | ◆これから勉強することを確かめよう。<br>**★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示**<br>○　パフォーマンス課題を確認し、単元を見通す。<br>「これから学習する中で楽しかったマット遊びを発表しよう。また、友達の発表のよいところを見付けよう。」<br>「マット遊びの順番や決まりを知って、マット遊びを楽しもう。」 | 【態度】<br>・順番や決まりを守り、誰とでも仲よく運動しようとしている。（観察） |
| 2 | ◆動物の動きや丸太転がりを楽しもう。<br>○　安全に気を付けて、マットの準備や片付けを行い、動物の動きや丸太転がり、背支持倒立を楽しむ。 | 【思・判・表】<br>・腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きの中から、動物の動きを選んでいる。<br>（観察・プリント）<br>【態度】<br>・場の安全に気を付けている。（観察） |
| 3 | ◆前転がりを楽しもう。<br>○　ゆりかご・動物歩き（イヌ、クマ、アザラシ、ウサギ）・丸太転がり・背支持倒立などのいろいろなマット遊びを楽しむ。<br>○　前転がりに挑戦する。 | 【知・技】<br>・マットに背中や腹などを着けていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。（観察・プリント） |
| 4 | ◆後ろ転がりを楽しもう。<br>○　ゆりかご・動物歩き（イヌ、クマ、アザラシ、ウサギ）・丸太転がり・背支持倒立・前転がりなどのいろいろなマット遊びを楽しむ。<br>○　後ろ転がりに挑戦する。 | 【知・技】<br>・マットに背中や腹などを着けていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。（観察・プリント） |
| 5 | ◆壁登り逆立ちを楽しもう。<br>○　ゆりかご・動物歩き（イヌ、クマ、アザラシ、ウサギ）・丸太転がり・背支持倒立・前転がり・後ろ転がりなどのいろいろなマット遊びを楽しむ。<br>○　壁登り逆立ちに挑戦する。 | 【知・技】<br>・手や背中で支えて体の保持や壁登り逆立ちをして遊ぶことができる。<br>（観察・プリント） |
| 6 | ◆いろいろな遊び方に挑戦して楽しもう。<br>**★ＩＣＴの活用**<br>○　いろいろな遊び方を楽しみながら、自分ができるようになったことを確かめたり、友達と遊び方を工夫して楽しんだりする。 | 【思・判・表】<br>・マットを使った簡単な遊び方を工夫している。（観察・プリント）<br>【態度】<br>・マットを使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。（観察） |
| 7 | ◆グループで発表会をしよう。<br>○　これまでの学習の中で楽しかったマット遊びを発表し、友達の発表のよいところを見付け伝えよう。<br>**★パフォーマンス課題（発表・プリント）**<br>○　グループごとにマット遊びの発表会を行う。<br>○　友達の発表のよいところを見付け、伝え合う。 | 【知・理】<br>・マットを使った運動遊びの行い方を知っている。（観察）<br>【思・判・表】<br>・友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。<br>（観察・プリント） |

| 教科名 | 小学校　外国語科 | 学　年 | ５学年 |
|---|---|---|---|
| 単元名 | Lesson 5　I can run fast. | 児童数 | 42 名 |
| | | 授業者 | 市原　秀樹 |

1「深い学び」に向かう子どもの姿

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿

④　思いや考えを基に創造しようとする姿

2　単元の目標と観点別評価規準

・できることの伝え方や尋ね方を知って、言うことができる。

・自分と相手以外の人を表す三人称 he と she が分かり、言うことができる。

・音声で慣れ親しんだ語句を書き写すことができる。

・より伝わるような内容や表現の仕方を考え、できることを伝えたり、尋ねたりすることができる。

・他者に配慮しながら積極的に話そうとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりする。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・できること、できないことの言い方について理解している。<br>・できることやできないことについて尋ねたり、伝えたりすることができる。<br>・できることについて聞き取ったり、話したりすることができる。<br>・自分と目の前の相手以外の人を表す三人称 he と she が分かり、言うことができる。<br>・自分の特技やできることについて、文字をなぞり書きしたり、書き写したりすることができる。 | ・自分ができることやできないことを考え、友達と伝え合っている。<br>・自分ができることやできないことについて、自分が伝えたい内容を考えている。<br>・自分ができることやできないことについて、どのように相手に伝えたらよいか、学習したことを基に考え表現している。 | ・他者に配慮しながら積極的に自分ができることについて話そうとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりしている。 |

3　単元で働かせる「見方・考え方」

自分ができること（できないこと）を伝えるために、どのように相手に伝えたらよいか、考え表現する。

4　**パフォーマンス課題**（I can…/ I can’t…を用いた口答テスト）

自分が「できること」と「できないこと」について紹介しよう。
また、それをもとに Can you～？の質問に答えよう。

5　ルーブリック

| | ① Volume/Speed に関すること　② Performance に関すること　③ Attitude に関すること |
|---|---|
| A | ①　相手に伝わる声の大きさで、はっきりと話せているよ。相手に伝わるように話す速さも調節しているね。<br>②　学習した単語や表現を使って、「できること」や「できなこと」を伝えたり、答えたりしているね。<br>③　効果的なジェスチャーやリアクションを加え、聞き手に目線を振りながら、進んで話すことができたね。 |
| B | ①　相手に伝わる声の大きさや速さで話せているよ。<br>②　学習した単語や表現を使って、「できること」や「できなこと」を伝えているね。<br>③　ジェスチャーやアイコンタクトを交えながら、進んで話すことができたね。 |
| C | ①　相手に伝わる声の大きさや速さで話してみよう。<br>②　「できること」や「できないこと」をどのように伝えたらいいか、今までの学習をたしかめてみよう。<br>③　ジェスチャーなどを交えながら、自信をもって話せるようにがんばろう。 |

6　**ＩＣＴの活用場面と工夫**

※　「深い学び」に向かう子どもを育むためのＩＣＴの活用場面はありません 。

7　単元の指導と評価の計画（全７時間）

| 時間 | 学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 評価の観点【 】評価規準 |
|---|---|---|
| 1 | ◆自分のできることやできないことを英語で伝えよう。<br>○　導入（あいさつ、Warm-up、デモンストレーションなど）<br>○　単元の見通しをもつ（ゴールの提示）<br>○　Let’s Watch<br>○　Let’s Listen 1<br>○　Let’s Say It Together 1<br>**★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示** | 【知・技】<br>・できること、できないことの言い方について理解している。（観察） |
| 2 | ◆できることやできないことについて尋ねたり答えたりしよう。<br>○　導入（あいさつ、warm-up、めあての確認など）<br>○　Let’s Say It Together 2<br>○　Let’s Listen 2<br>○　Let’s Sing | 【知・技】<br>・できることやできないことについて尋ねたり、伝えたりすることができる。（観察・テキスト） |
| 3 | ◆できることを詳しく言うためにどんな言葉を使うか学習しよう。<br>○　導入（あいさつ、warm-up、めあての確認など）<br>○　Let’s Listen 3<br>○　Let’s Think<br>○　Activity 1 | 【知・技】<br>・できることについて聞き取ったり、話したりすることができる。（観察・テキスト） |
| 4 | ◆三人称 he と she の使い方を知って、言ってみよう。<br>○　導入（あいさつ、warm-up、めあての確認など）<br>○　Let’s Listen 4<br>○　Let’s Say It Together 3<br>○　シングル・コーナー[M/m, N/n, O/o] | 【知・技】<br>・自分と目の前の相手以外の人を表す三人称 he と she が分かり、言うことができる。（観察・テキスト） |
| 5 | ◆できること・できないことを尋ねたり答えたりしよう。<br>○　導入（あいさつ、warm-up、めあての確認など）<br>○　デモンストレーションの確認<br>○　Activity 2<br>○　Sounds and Letters | 【思・判・表】<br>・自分ができることを考え、友達と伝え合っている。（観察・ワークシート） |
| 6 | ◆自分が伝えたいできること・できないことを選んで、ワークシートに書いてみよう。<br>○　導入（あいさつ、warm-up、めあての確認など）<br>○　Final Activity | 【知・技】<br>・自分の特技やできることについて、文字をなぞり書きしたり、書き写したりすることができる。（観察・ワークシート）<br>【思・判・表】<br>・自分ができることについて、自分が伝えたい内容を考えている。<br>（観察・ワークシート） |
| 7 | ◆ワークシートをもとに、パフォーマンステストに挑戦しよう。<br>**★パフォーマンス課題（ワークシート・口頭説明）**<br>**★ルーブリックの活用**（評価の仕方を示す）<br>○　導入（あいさつ、warm-up、めあての確認など）<br>○　デモンストレーションの確認<br>○　HRT･ALT と１対１による会話（パフォーマンステスト）<br>○　Review | 【思・判・表】<br>・自分ができることやできないことについて、学習したことを基に考え表現している。（観察・ワークシート）<br>【態度】<br>・他者に配慮しながら積極的に自分ができることについて話そうとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりしている。（観察・ワークシート） |

| 教科名 | 小学校　音楽科 | 学　年 | ５学年 |
|---|---|---|---|
| 題材名 | Ｂ鑑賞　オーケストラのみりょく | 児童数 | 23名 |
| | | 授業者 | 吉田　哲朗 |

1「深い学び」に向かう子どもの姿

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿

④　思いや考えを基に創造しようとする姿

2　題材の目標と観点別評価規準

・曲想と楽器群の響きなど音楽の構造との関わりについて理解する。

・音色、音の重なり、旋律、反復、変化などを聴き取り、それらのよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見いだし、曲全体を味わって聴く。

・楽器群の響きや作品の背景に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、オーケストラの音楽に親しむ。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・曲想と楽器群の響きなど音楽の構造との関わりについて理解している。 | ・音色、音の重なり、旋律、反復、変化などを聴き取り、それらのよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。 | ・楽器群の響きや作品の背景に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。 |

3　題材で働かせる見方・考え方

オーケストラの音楽を、音色、音の重なり、旋律の反復や変化といった要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情などを関連付ける。

4　**パフォーマンス課題**（ワークシート）

組曲「カレリア」から「行進曲風に」を聴いて、曲の魅力について感想を書こう。

5　ルーブリック

| | |
|---|---|
| A | 曲の音色、音の重なり、旋律、反復、変化など曲の構造や旋律を演奏する主な楽器の変化について多数気付き、それらのよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、自己のイメージや感情と結び付けて、曲や演奏の魅力についてとても具体的な感想を書いている。 |
| B | 曲の音色、音の重なり、旋律、反復、変化など曲の構造や旋律を演奏する主な楽器の変化について気付き、それらのよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、自己のイメージや感情と結び付けて、曲や演奏の魅力について感想を書いている。 |
| C | Ｂ基準に満たないもの。 |

6　**ＩＣＴの活用の場面と工夫**

タブレット端末を活用して、それぞれの子どもが曲の気になるところを自由に繰り返し聴くなど、個人の学習のペースに合わせて鑑賞する。

7　題材の指導と評価の計画（全３時間）

| 時間 | 学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 評価の観点【 】評価規準 |
|---|---|---|
| 1 | ◆オーケストラの編成について知ろう。<br>**★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示**<br>○　オーケストラの楽器の名前や楽器群、編成について知る。<br>○　組曲「カレリア」から「行進曲風に」を、オーケストラの響きを楽しんで聴く。 | 【態度】<br>・楽器群の響きや作品の背景に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。（観察） |
| 2 | ◆旋律の反復と変化に気を付けて聴こう。<br>**★ＩＣＴの活用**<br>○　「行進曲風に」を旋律の反復と変化に気付き、楽器群の音色を捉えて聴く。 | 【知・技】<br>・「行進曲風に」の曲想と、楽器群の響きなど音楽の構造との関わりについて理解している。（ワークシート） |
| 3 | ◆「行進曲風に」を聴いて、曲の魅力について感想を書こう。<br>**★パフォーマンス課題（ワークシート）**<br>○　曲の構造や旋律を演奏する主な楽器の変化を捉え、曲全体を聴く。 | 【思・判・表】<br>・「行進曲風に」の音色、音の重なり、旋律、反復、変化などを聴き取り、それらのよさや美しさ、面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。<br>（ワークシート） |

## Ⅲ　授業実践（小学校）

| 教科名 | 小学校　図画工作科 | 学　年 | ４学年 |
|---|---|---|---|
| 題材名 | コロコロガーレ（コロコロワールド） | 児童数 | 21名 |
| | | 授業者 | 岩田　浩平 |

1「深い学び」に向かう子どもの姿

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿
④　思いや考えを基に創造しようとする姿

2　題材の目標と観点別評価規準

・ビー玉を転がしながら、表したいことを見付け、形や色などの感じを捉えながら、材料や用具の使い方を工夫して、楽しいコースをつくる。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・ビー玉を転がして楽しく遊ぶものを作るときの感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じなどが分かっている。<br>・材料を適切に扱うとともに、これまで用具を活用した経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 | ・形や色などの組合せによる感じを基に、ビー玉を転がして感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。<br>・形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 | ・作り出す喜びを味わい進んでビー玉を転がして楽しく遊ぶものを作る学習活動に取り組もうとしている。 |

3　題材で働かせる見方・考え方

感性や想像力を働かせ、紙材を用いてビー玉を転がして遊ぶものを、形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら遊んで楽しいコースを発想や構想する。

4　**パフォーマンス課題**（作品・ワークシート）

「コースの形といろいろな仕掛けで、みんなが転がしたくなるコースを作ろう！」

5　ルーブリック

| | |
|---|---|
| A | ビー玉の転がり方で感じたことや想像したことから、自分のテーマに基づいてみんなが転がしたくなるコースの形と仕掛けになるよう、想像力豊かに紙の曲げ方や組み合わせ方、色などを生かしながら考えている。 |
| B | ビー玉の転がり方で感じたことや想像したことから、自分のテーマに基づいてみんなが転がしたくなるコースの形と仕掛けになるよう、紙の曲げ方や組み合わせ方、色などを生かしながら考えている。 |
| C | Ｂ基準を満たしていない。 |

6　**ＩＣＴの活用の場面と工夫**

※「深い学び」に向かう子どもを育むためのＩＣＴの活用場面はありません。

7　題材の指導と評価の計画（全８時間）

| 時間 | 学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 評価の観点【 】評価規準 |
|---|---|---|
| 1<br>2 | ◆ビー玉を転がして試しながら、コースを作ってみよう。<br>**★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示**<br>○　ビー玉を転がす仕組みに興味をもち、活動の見通しをもつ。<br>○　紙の基本的な操作や仕組みについて理解する。<br>○　紙の曲げ方や組合せ方を試してコースを考えて作る。<br>○　後で作り方等を振り返るために、制作したものをシートに貼っていく。 | 【思・判・表】<br>・ビー玉の転がる仕組みから発想し、楽しい転がり方や表したいイメージに合うコースや飾りを考えている。<br>（観察）<br>【態度】<br>・ビー玉を転がす仕組みに興味をもち、活動の見通しをもって取り組もうとしている。（観察・ワークシート） |
| 3 | ◆作品の仕組みをもとにしてテーマを決めよう。<br>○　ビー玉を転がす仕組みを振り返る。<br>○　作りたいもののイメージを明確化し、作品のテーマを決める。<br>○　テーマに合ったイメージ図を考える。 | 【思・判・表】<br>・ビー玉の転がる仕組みから発想し、楽しい転がり方や表したいイメージに合うコースや飾りを考えている。<br>（ワークシート）<br>【態度】<br>・作り出す喜びを味わい、テーマに合った作品を作る学習活動に取り組もうとしている。（観察、ワークシート） |
| 4～6 | ◆自分のテーマに合った作品を作ろう。<br>○　テーマに合った作品になるように、形や色、紙の曲げ方や組合せ方などの表し方を工夫して作る。<br>・土台作り<br>・コース作り<br>・仕掛け作り　等 | 【知・技】<br>・コースのイメージに合わせて形や色を選びながら、形や色の感じの組合せによる感じが分かっている。（観察、作品）<br>・表したいことに合わせて、コースや飾りなどの表し方を工夫している。<br>（観察、作品） |
| 7 | ◆コースの形といろいろな仕掛けで、みんなが転がしたくなるコースを作ろう！<br>**★パフォーマンス課題（作品、ワークシート）**<br>○　今回の題材で学習した技能を用いながら、形や色、材料などを生かして、表したいイメージをどのように表すかについて考えながら作品を完成させ、工夫したところをワークシートに記入する。 | 【思・判・表】<br>・ビー玉の転がり方で感じたことや想像したことから、みんなが転がしたくなるコースの形と仕掛けになるよう、紙の曲げ方や組み合わせ方、色など生かしながら考えている。（ワークシート）<br>【態度】<br>・作り出す喜びを味わい、テーマに合った作品を作る学習活動に取り組もうとしている。（観察、ワークシート） |
| 8 | ◆友達の作品のおもしろいところや工夫しているところを伝え合おう。<br>○　友達の作品を遊びながら鑑賞する。<br>○　お互いの作品のよさや面白いところ、工夫しているところを見付け、伝える。 | 【思・判・表】<br>・友達の作品を見たり動かしたりしながら、作品の造形的なよさや面白さ、いろいろな表し方などを感じ取ったり、考えたりしている。（ワークシート） |

| 教科名 | 小学校　体育科 | 学　年 | ５学年 |
|---|---|---|---|
| 単元名 | ゴール型ゲーム（バスケットボール） | 児童数 | 21名 |
| | | 授業者 | 齋藤　織斗 |

1「深い学び」に向かう子どもの姿

③　問題を見いだして解決策を考えようとする姿

2　単元の目標と観点別評価規準

・ゴール型（バスケットボール）の行い方を知るとともに、ボールの操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。
・ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を考えたりするとともに、自己や仲間の考えを他者に伝えることができるようにする。
・運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・相手のいない位置にボールを運ぶことができる。<br>・得点しやすい位置に移動し、パスを受けたり、シュートを打ったりすることができる。 | ・自己やチームの特徴に応じた作戦を考えている。<br>・相手のいない位置にボールを運ぶ動き方の工夫を他者に伝えている。<br>・得点しやすい位置に移動し、パスを受けたり、シュートを打ったりする動き方の工夫を他者に伝えている。 | ・運動に積極的に取り組もうとしている。<br>・ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。<br>・仲間の考えや取組を認めようとしている。<br>・用具の準備や片付けで、役割を果たしている。<br>・場や用具の安全に気を配っている。 |

3　単元で働かせる見方・考え方

ボール操作とボールを持たないときの動きによって攻防を組み立てるバスケットボールの特性に着目して、楽しさや喜びとともに自分の動きやチームの特徴に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付ける。

4　**パフォーマンス課題（**ワークシート・発言）

チームの特徴に応じた作戦を考え、考えたことを他者に伝えよう。
作戦→（ボールを持っている人、持っていない人の動き方・パスの出し方・守り方など）

5　ルーブリック

| | |
|---|---|
| A | 自己やチームの特徴やゲームの反省を生かした作戦を考え、作戦に応じた動き方の工夫（相手のいない位置にボールを運ぶ動き方、得点しやすい位置に移動したパスの受け方、シュートを打つための動き方など）を、他者に伝えている。 |
| B | 自己やチームの特徴やゲームの反省を生かした作戦を考え、動き方の工夫（相手のいない位置にボールを運ぶ動き方、得点しやすい位置に移動したパスの受け方、シュートを打つための動き方など）を、他者に説明することができる。 |
| C | Ｂの基準を満たしていない。 |

6　**ＩＣＴの活用の場面と工夫**

パフォーマンス課題に取り組む際に、タブレット端末の録画機能を使い、自分たちの試合の動きを確かめたり、Jamboard を作戦ボードの代わりに使用したりすることで、チームの作戦を考えやすくする。

7　単元の指導と評価の計画（全７時間）

| 時間 | 学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 評価の観点【 】評価規準 |
|---|---|---|
| 1 | ◆バスケットボールのルールを知ろう。<br>○　単元のねらいと流れをつかみ、はじめのルールや要素を理解する。<br>**★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示** | 【知・技】<br>・バスケットボールの行い方を理解している。（観察）<br>【態度】<br>・場や用具の安全に気を配っている。<br>（観察） |
| 2・3 | ◆基本的な技能を身に付けて、ゲームを楽しもう。<br>○　ドリルゲームを行う。<br>・ドリブル鬼ごっこ　・パスゲーム　・シュート練習<br>○　振り返り、片付け | 【知・技】<br>・相手のいない位置にボールを運ぶことができる。（観察）<br>・得点しやすい位置に移動し、パスを受けたり、シュートを打ったりすることができる。（観察）<br>【態度】<br>・運動に積極的に取り組もうとしている。<br>（観察） |
| 4 | ◆ハーフコートゲーム（３対２）をして、自分のチームの課題を見付けて作戦を考えよう。<br>**★ＩＣＴの活用**<br>○　ドリルゲームを行う。<br>・パスゲーム　・シュート練習<br>○　ハーフコートゲームを行い、チームの課題を見付ける。<br>○　チームで課題に応じた練習方法を考え、練習をする。<br>○　振り返り、片付け | 【思・判・表】<br>・誰もが楽しくゲームに参加できるようにルールを工夫している。<br>（発言・ワークシート）<br>【態度】<br>・場の設定や用具の片付けなどで、役割を果たそうとしている。（観察） |
| 5 | ◆チームの特徴に応じた作戦を考え、考えたことを他者に伝えよう。<br>作戦→（ボールを持っている人、持っていない人の動き方・パスの出し方・守り方など）<br>**★パフォーマンス課題（ワークシート・発言）**<br>**★ＩＣＴの活用**<br>○　シュート練習<br>○　チーム練習<br>○　ハーフコートゲーム①<br>○　チームで作戦会議を行い、課題を明確にする。<br>○　ハーフコートゲーム②<br>○　振り返り、片付け | 【思・判・表】<br>・相手のいない位置にボールを運ぶ動き方の工夫を他者に伝えている。<br>（ワークシート・発言）<br>・得点しやすい位置に移動し、パスを受けたり、シュートを打ったりする動き方の工夫を他者に伝えている。<br>（ワークシート・発言）<br>【態度】<br>・仲間の考えや取組を認めようとしている。<br>（観察・発言） |
| 6・7 | ◆今までの学習を生かし、ゲームをしよう。<br>○　チームで作戦を確認する。<br>○　ハーフコートゲーム<br>○　振り返り、片付け | 【知・技】<br>・相手のいない位置にボールを運ぶことができる。（観察）<br>・得点しやすい位置に移動し、パスを受けたり、シュートを打ったりすることができる。（観察）<br>【思・判・表】<br>・自己やチームの特徴に応じた作戦を考えている。（発言・ワークシート）<br>【態度】<br>・ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。（観察） |

| 教科名 | 小学校　理科 | 学　年 | 5学年 |
|---|---|---|---|
| 単元名 | ふりこ | 児童数 | 27名 |
| | | 授業者 | 森岡　達昭 |

1「深い学び」に向かう子どもの姿

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿
③　問題を見いだして解決策を考えようとする姿

2　単元の目標と観点別評価規準

・振り子の１往復する時間に着目して、それらの条件を制御して調べる活動を通して、振り子の１往復する時間が変わる要因についての理解や実験に関する技能を身に付け、予想や仮説を基に解決の方法を発想して表現することができる。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・振り子の１往復する時間が変わる要因を理解している。<br>・器具などを正しく扱って実験を行い、その結果を適切に記録している。 | ・振り子の１往復する時間が変わる要因について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 | ・振り子の１往復する時間について、進んで関わりながら問題解決しようとしている。<br>・振り子の１往復する時間について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |

3　単元で働かせる見方・考え方

振り子の１往復する時間について、量的・関係的な視点（おもりの重さ、振り子の長さ、振れ幅などの条件）で捉え、比較したり、関連付けたりして科学的に探究する方法を用いて考察する。

4　**パフォーマンス課題**（実験レポート）

１往復が１秒のふりこを作り、作り方を実験レポートにまとめよう。

5　ルーブリック

| | |
|---|---|
| A | 振り子の１往復する時間が変わる要因（振り子の長さを変えると１往復する時間が変わること）を基に、「１秒振り子」を作成する方法について根拠のある予想や仮説を発想し、条件を制御した計画に沿って実験を行い、得られた実験結果から考察するなどして問題解決している。 |
| B | 「１秒振り子」を作成する方法について予想や仮説を発想し、得られた実験結果から考察したりするなどして問題解決している。 |
| C | B の基準を満たしていない（実験レポートを完成できない。「１秒振り子」を完成することができない）。 |

6　**ＩＣＴの活用の場面と工夫**

「１秒振り子」を動画で撮影し、Teams で動画と実験レポートの画像を交流し合う。

7　単元の指導と評価の計画（全８時間）

| 時間 | 学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 評価の観点【 】評価規準 |
|---|---|---|
| 1 | ◆自分でふりこを作って、音楽に合わせて動かそう。<br>○　振り子の概念を知る。<br>○　糸と消しゴムなどを使って振り子を作る。<br>○　色々な音楽を流し、曲に合わせて振り子を動かす。<br>**★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示** | 【態度】<br>・振り子の規則性について興味をもち、進んで活動に取り組もうとしている。（観察） |
| 2 | ◆いろいろなふりこを作ろう。<br>○　長さを変えた振り子を作る。<br>○　色々な重さのおもりを使って振り子を作る。<br>○　それぞれの振り子を音楽に合わせて揺らす。<br>○　気付いたことを話し合う。 | 【知・技】<br>・振り子の１往復する時間のきまりを確かめ、その結果を適切に記録している。（ノート） |
| 3 | ◆ふりこの１往復する時間は、何によって変わるのか。<br>○　振り子の１往復する時間には何が関係しているのか予想する。<br>○　予想したことを交流し、実験で変える条件を整理する。<br>○　どのような実験をするとよいかを考え交流し、実験方法を整理する。 | 【思・判・表】<br>・振り子の１往復する時間のきまりについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。（ノート） |
| 4 | ◆ふりこの長さが 30ｃｍと 60ｃｍのときで、ふりこの１往復する時間を調べよう。<br>○　実験の結果を予想する。<br>○　振り子実験装置を使って、条件を変えながら振り子の１往復する時間を調べる。<br>○　実験結果を記録し、予想と比べながら結果について話し合う。<br>○　結果から分かることを話し合い、整理する。 | 【知・技】<br>・振り子の１往復する時間のきまりを確かめ、その結果を適切に記録している。（ノート）<br>【思・判・表】<br>・振り子の１往復する時間のきまりについて、実験の結果を基に考察し、表現している。（ノート） |
| 5 | ◆ふりこの重さがおもり１個と２個のときで、ふりこの１往復する時間を調べよう。<br>○　実験の結果を予想する。<br>○　振り子実験装置を使って、条件を変えながら振り子の１往復する時間を調べる。<br>○　実験結果を記録し、予想と比べながら結果について話し合う。<br>○　結果から分かることを話し合い、整理する。 | 【知・技】<br>・振り子の１往復する時間のきまりを確かめ、その結果を適切に記録している。（ノート）<br>【思・判・表】<br>・振り子の１往復する時間のきまりについて、実験の結果を基に考察し、表現している。（ノート） |
| 6 | ◆ふりこのふれはばが 10°と 20°のときで、ふりこの１往復する時間を調べよう。<br>○　実験の結果を予想する。<br>○　振り子実験装置を使って、条件を変えながら振り子の１往復する時間を調べる。<br>○　実験結果を記録し、予想と比べながら結果について話し合う。<br>○　結果から分かることを話し合い、整理する。 | 【知・技】<br>・振り子の１往復する時間のきまりを確かめ、その結果を適切に記録している。（ノート）<br>【思・判・表】<br>・振り子の１往復する時間のきまりについて、実験の結果を基に考察し、表現している。（ノート） |
| 7・8 | ◆１往復が１秒のふりこを作り、作り方を実験レポートにまとめよう。<br>**★パフォーマンス課題（実験レポート）・ＩＣＴの活用**<br>○　１秒振り子を完成させる。<br>○　完成の段階で、振り子の長さと 10 往復した時間を記録する。<br>○　どのような考え方で１秒振り子を完成させたか、実験レポートを書く。<br>○　１秒振り子の動画と、レポートの画像を撮影し、Teams 上で交流する。 | 【知・技】<br>・振り子の１往復する時間は、おもりの重さや振り子の振れ幅によっては変わらず、振り子の長さによって変わることを理解している。（レポート）<br>【思・判・表】<br>・振り子の１往復する時間のきまりについて、今までの実験を基に課題の解決方法を発想し、実験レポートにまとめ表現している。<br>（実験レポート）<br>【態度】<br>・学んだことを基に、進んで関わりながら課題解決しようとしている。（実験レポート） |

| 教科名 | 小学校　社会科 | 学　年 | 6学年 |
|---|---|---|---|
| 単元名 | 戦国の世から天下統一へ | 児童数 | 32名 |
| | | 授業者 | 中田　和行 |

1「深い学び」に向かう子どもの姿

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿
②　情報を精査して考えを形成しようとする姿

2　単元の目標と観点別評価規準

・我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表、その他の資料で調べ、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、表現することを通して、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、地図や年表、その他の資料で調べ、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を理解している。<br>・調べたことを年表や文などにまとめ、戦国の世が統一されたことを理解している。 | ・世の中の様子、人物の働きや文化遺産などに着目して、問いを見いだし、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について考え表現している。<br>・キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を関連付けたり総合したりして、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、適切に表現している。 | ・キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 |

3　単元で働かせる見方・考え方

戦国の世の統一を果たした二人の武将の役割を、外国との関わりや、戦いの様子、政治の様子に着目して地図や年表、その他の資料で調べ、関連付けたり総合したりして考える。

4　**パフォーマンス課題**（ポスター）

「天下統一に向けての働きがより大きかったのは、信長か秀吉のどちらか」をテーマに、自分の考えをポスター（Google Jamboard）にまとめよう。

5　ルーブリック

| | |
|---|---|
| A | 二人の武将の天下統一に向けた働きを、外国との関わりや戦いの様子、政治の様子に基づいて深く考え、比較したり総合したりしながら、適切に表現している。 |
| B | 織田信長と豊臣秀吉、二人の武将の天下統一に向けた働きを、学習したことに基づいて考え、表現している。 |
| C | B の基準を満たしていない。 |

6　**ＩＣＴの活用の場面と工夫**

タブレット端末（Google Jamboard）を活用して、自分の考えをポスターに表し、お互いのポスターを見せ合い、交流する。

7　単元の指導と評価の計画（全７時間）

| 時間 | 学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 評価の観点【 】評価規準 |
|---|---|---|
| 1 | ◆戦国の世の戦いの様子について調べよう。<br>○　戦国の世の戦いの様子について、教科書の本文や資料を基に読み取り、発表する。 | 【知・技】<br>・必要な情報を読み取り、戦国大名が各地で戦いを続ける戦国の世となり、織田信長が力を発揮するようになったことを理解している。<br>（発言・ノート） |
| 2 | ◆戦国の世、日本と外国にはどのようなかかわりがあったのか調べよう。<br>○　戦国時代の日本が外国とどのような関わりがあったのかを、資料を基に調べる。<br>○　ヨーロッパの進んだ文化や品物が入ってきて、日本にはどのような影響があったのかを資料やグラフを見て調べる。 | 【知・技】<br>・必要な情報を集め、読み取り、キリスト教の伝来など外国との関わりが、日本にさまざまな影響を与えたことについて理解している。<br>（発言・ノート） |
| 3 | ◆二人の武将の天下統一へ向けた動きを読み取りながら学習問題をつくり、学習計画を立てよう。<br>○　年表や資料を参考にしながら、織田信長や豊臣秀吉の天下統一に向けた活躍を知り、学習問題をつくる。<br>○　二人の年表を比較しながら読み取り、政治や戦い方、外国との関わりなどの視点から、共通点や相違点を見付ける。<br>**★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示** | 【思・判・表】<br>・織田信長、豊臣秀吉の働きや外国との関わりに着目して、二人の武将の政策について共通点や相違点を見いだしている。（発言・ノート）<br>【態度】<br>・学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもとうとしている。（発言・ノート） |
| 4 | ◆織田信長の天下統一に向けた政策を調べよう。<br>○　織田信長の天下統一へ向けた戦い方や政治の様子を調べる。<br>○　学習したことを文章や図にまとめる。 | 【知・技】<br>・必要な情報を読み取り、織田信長が有力な大名を倒して天下統一を進めていったことを理解している。<br>（発言・ノート） |
| 5 | ◆豊臣秀吉の天下統一に向けた政策を調べよう。<br>○　豊臣秀吉の天下統一へ向けた戦い方や政治の様子を調べる。<br>○　学習したことを文章や図にまとめる。 | 【知・技】<br>・必要な情報を読み取り、豊臣秀吉が世の中を支配する仕組みをつくって天下統一したことについて理解している。<br>（発言・ノート） |
| 6 | ◆「天下統一に向けての働きがより大きかったのは、信長か秀吉のどちらか」をテーマに、自分の考えをポスターにまとめよう。<br>**★パフォーマンス課題（ポスター）・ＩＣＴの活用**<br>○　「天下統一に向けて働きがより大きかったのは織田信長、豊臣秀吉のどちらか」をテーマにポスター（Google Jambord）を作る。 | 【思・判・表】<br>・戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、表現している。<br>（ポスター） |
| 7 | ◆天下統一を進めた二人の武将の働きについて、考えをまとめ発表しよう。<br>○　「天下統一に向けて働きがより大きかったのは織田信長、豊臣秀吉のどちらか」をテーマに作成したポスター（Google Jambord）をグループごとに見せ合い、感想を交流し合う。 | 【態度】<br>・キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一について、学習を振り返って学習問題を追究し、解決しようとしている。（ノート） |

# Ⅳ　授業実践（中学校）

## 1　単元計画

| 教科名 | 中学校　国語科 | 学　年 | ３学年 |
|---|---|---|---|
| 単元名 | 『async-同期しないこと』／『問いかける言葉』 | 生徒数 | 40名 |
| | | 授業者 | 佐藤　悠樹 |

**1　「深い学び」に向かう子どもの姿**

④　思いや考えを基に創造しようとする姿

**2　単元の目標と観点別評価規準**

・事例と主張とを関係付けて読むことができる。
・文章を読み、社会や他者との関わりについて自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・それぞれの筆者がどのようなことを主張のよりどころとしているかを捉え、文章の理解を深めている。 | ・「読むこと」において、それぞれの筆者が社会についてどのように考えているのかを読み、情報を比較する中で、考えを広げたり深めたりして、社会の捉え方、社会との関わり方について、自分の意見をもっている。 | ・粘り強く文章を読んで社会に対する自分の考えを深め、学習課題に沿って考えたことをまとめようとしている。 |

**3　単元で働かせる見方・考え方**

筆者が述べる主張とその根拠となる情報に着目し、社会の捉え方や社会との関わりを２つの論説の情報を比較しながら考える。

**4　パフォーマンス課題（ワークシート）**

これから高校進学や就職など社会に飛び立つ皆さんは、社会や人とどのように関わっていきますか。２つの教材から得た知識や「不寛容」などの言葉から得たそれぞれの筆者のものの見方や考え方を踏まえて、社会や人との関わり方について、自分の考えをまとめましょう。

**5　ルーブリック**

| | |
|---|---|
| A | Ｂに加え、ものの見方や考え方に対して共感できる点や疑問に思う点、賛同できない点など、自己の経験（見たり聞いたりした内容も含む）を踏まえ論理的な文章にまとめている。 |
| B | ２つの論説で捉えた筆者の考えを比較し、共通点・相違点をまとめた上で、社会や人との関わり方について自分の考えをまとめている。 |
| C | Ｂの基準を満たしていない（主張と自分の意見に矛盾があるなど）。 |

**6　ＩＣＴの活用の場面と工夫**

Mentimeter：各個人の考えの可視化することで、考えの交流をしながら、本作品の課題の焦点化を図る。
PowerPoint：共同編集機能を活用し、グループでの考えを深化させるとともに、主体的な課題解決活動を目指す。

| ７　単元の指導と評価の計画（全７時間） | | |
|---|---|---|
| 時間 | 学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 評価の観点【 】評価規準 |
| 1 | ○　「学びナビ」を読み、今回の単元で付けたい力について確認する。<br>単元を通した課題<br>《筆者の主張のよりどころを捉え、比較読みしながら自分の考えをもち、深める。》<br>◆筆者の主張とその根拠、本文中のキーワードに着目しながら本文を読もう。<br>★ＩＣＴの活用（Mentimeter）<br>○　Mentimeter を利用し、短文やキーワードを見合いながら、考えを交流する。<br>★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示<br>○　シラバスとパフォーマンス課題、ルーブリックを確認し、単元を見通す。<br>○　本文を通読し、主張とその根拠を捉える。 | 【知・技】<br>・本文を通読し、主張の根拠になることを、それぞれの筆者がどのようなことをよりどころとしているか捉え、ワークシートを活用しながら文章を理解している。<br>（ワークシート）<br>【態度】<br>・粘り強く文章を読んで社会に対する自分の考えを深め、学習課題に沿って考えたことにまとめようとしている。（観察） |
| 2・3 | ◆文章の内容を、表現の仕方に注意しながら整理しよう。<br>○　ワークシートを使用しながら、『async-同期しないこと』『問いかける言葉』の内容をそれぞれまとめる。<br>○　必要に応じて、１時間目に出てきたキーワードなどを取り上げ、確認する。 | 【知・技】<br>・それぞれの筆者がどのようなことを根拠にして、それぞれの主張を述べているか捉え、文章の理解を深めている。（ワークシート） |
| 4・5 | ◆それぞれの筆者のものの見方や考え方と１時間目に挙げた課題となる言葉に着目し、どのような意味で使われているか考える。<br>★ＩＣＴの活用（PowerPoint）<br>○　PowerPoint を利用し、グループで言葉に着目した内容をまとめ、交流する。<br>★ルーブリックの活用<br>○　交流した内容を生かし、パフォーマンス課題に取り組む。 | 【思・判・表】<br>・「読むこと」において、それぞれの筆者が社会についてどのように考えているのか、言葉に着目することによって考えを広げたり深めたりして、筆者の考える社会の捉え方、社会との関わり方について、考えをまとめている。（ワークシート） |
| 6・7 | ◆それぞれの筆者のものの見方や考え方を比較し、自分の社会や人に関する考えをまとめよう。<br>★パフォーマンス課題（ワークシート）・ルーブリックの活用<br>６時間目<br>○　前時から取り組んできたワークシートを見直したり、修正したりする。<br><br>７時間目<br>○　全体で交流し、他者の意見と自分の意見を比較する。<br>※　交流の際には、観点を記載した短冊を用意し、相互評価を行う。<br>○　周りから得られた意見から、自分の考えを更に深める。<br>※　得られた評価や他者の意見を読んだ上で、自分の成果物を見直し、推敲していく。<br><br>※適宜、次時以降において課題のフィードバックを行う。 | 【知・技】<br>・主張の根拠になることを、それぞれの筆者がどのようなことをよりどころとしているか捉え、文章中で自分の言葉で説明できている。<br>（ワークシート）<br>【思・判・表】<br>・「読むこと」において、前時までにまとめた情報を基に、情報を比較・整理し、自分の社会に対する考えを広げたり深めたりして、社会の捉え方、社会との関わり方について、自分の意見をもっている。<br>（ワークシート）<br>【態度】<br>・粘り強く文章を読んで社会に対する自分の考えを深め、学習課題に沿って考えたことをまとめようとしている。（観察） |

## 2　授業記録

| ８　細案　授業実践　（１／７時） | |
|---|---|
| 本時の目標 | 評価規準 |
| 筆者の主張とその根拠、本文中のキーワードに着目しながら本文を読む。 | 【知・技】<br>・本文を通読し、主張の根拠になることを、それぞれの筆者がどのようなことをよりどころとしているか捉え、ワークシートを活用しながら文章を理解している。（ワークシート）<br>【態度】<br>・粘り強く文章を読んで社会に対する自分の考えを深め、学習課題に沿って考えたことをまとめようとしている。（観察） |

| | 具体的な子どもの姿<br>学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 教師の手立て |
|---|---|---|
| 見通す（単元） | ○　教科書の「学びナビ」を読み、今単元で付ける力を確認しながら、単元を通した課題を確認する。<br> <br>◆　筆者の主張のよりどころを捉え、比較読みしながら自分の考えをもち、深める。 | ・説明的な文章に関する既習事項を確認する。<br>・シラバスを提示し、本単元に必要な見方・考え方を説明し、これから身に付ける力について見通しをもたせる。 |
| 探究する | ○　本時の学習課題を確認する。<br>◆　筆者の主張とその根拠、本文中のキーワードに着目しながら本文を読もう。<br>○　『async―同期しないこと』『問いかける言葉』を通読する。<br>不寛容という言葉はどちらにも書かれているな。<br> <br>この音楽の話は、人間社会と同じということか。<br>○　筆者の考えの中心となる語句や社会との関わりに関する語句を抜き出し、Mentimeter を使って可視化する。<br>ＩＣＴの活用<br> <br><br>中心にあるのが、「同期」ですね。また、あちこちに書かれています。どのように使われていましたか。<br>「同期しない音を聞くことが大切」って書いている人も多いな。<br> | ・本文中のキーワード（筆者の考えの中心となる語句や社会との関わりに関する語句）だと思うところに線を引きながら通読するよう指示する。<br>・全員の考えを可視化することで、子どもが友達の考えと比較したり、教師が全体で考えを共有したりしながら、次の学習活動へつなげる。 |

探究する

○　「同期」や「不寛容」が、どういう意味で使われているのか、」ペアや全体で考える。

・辞書を使って調べたり、教材文から考えたりする。

「同期」って音を合わせること？他の人に合せること？「不寛容」は？

「寛容」は心が広く、人の考えを受け入れることだから…。

みなさんが考えてくれた言葉や「不寛容」「新しい」という言葉を課題にして、今後２つの教材を比較して考えをまとめていく学習になります。

見通す（単元）

○　パフォーマンス課題とルーブリックについて知る。

・本時の学習課題とのつながりを意識しながらパフォーマンス課題を説明する。
・パフォーマンス課題とルーブリックを活用し、これから学習することや、単元の終わりにはどのような力を身に付けていくか、学習に対する見通しがもてるようにする。

**【パフォーマンス課題】**
　これから高校進学や就職など社会に飛び立つ皆さんは、社会や人とどのように関わっていきますか。２つの教材から得た知識や「不寛容」などの言葉から得たそれぞれの筆者のものの見方や考え方を踏まえて、社会や人との関わり方について、自分の考えをまとめましょう。

| ルーブリック | |
|---|---|
| A | Ｂに加え、ものの見方や考え方に対して共感できる点や疑問に思う点、賛同できない点など、自己の経験（見たり聞いたりした内容も含む）を踏まえ論理的な文章にまとめている。 |
| B | ２つの論説で捉えた筆者の考えを比較し、共通点・相違点をまとめた上で、社会や人との関わり方について自分の考えをまとめている。 |
| C | Ｂの基準を満たしていない（主張と自分の意見に矛盾があるなど）。 |

今回のパフォーマンス課題では、「筆者の考えを比較して」というのがＢ評価になりますが、Ａ評価になるためには「共感できる点や疑問に思う点」など、自分の経験を踏まえて論理的な文章に…。

社会や人との関わりってどういうことかな。

筆者の考えに対して、自分の考えを整理しながら読み進めるといいんだな。

○　本時の振り返り

・次回からの学びにつなげる。

## ８　細案　授業実践　（５／７時）

| 本時の目標 | 評価規準 |
|---|---|
| それぞれの筆者のものの見方や考え方と１時間目に挙げた課題となる言葉に着目し、どのような意味で使われているか考える。 | 【思・判・表】<br>・「読むこと」において、それぞれの筆者が社会についてどのように考えているのか、言葉に着目することによって考えを広げたり深めたりして、筆者の考える社会の捉え方、社会との関わり方について、考えをまとめている。（ワークシート） |

| 具体的な子どもの姿<br>学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 教師の手立て |
|---|---|

見通す

※　前時では、『async』と『問いかける言葉』における「不寛容」と「新しい」という言葉が、本文中でどのような働きや効果をもつのか、また筆者の考えや思いなどをまとめる活動をグループで行っています。

**○　課題を確認する。**

◆　それぞれの筆者のものの見方や考え方と１時間目に挙げた課題となる言葉に着目し、どのような意味で使われているか考えよう。

本日は交流になります。他のグループの考えを聞いて、自分たちの内容についても再度振り返りをしましょう。まずは、説明の準備をしてください。

４グループ
①『async』の「不寛容」
②『async』の「新しい」
③『問いかける言葉』の「不寛容」
④『問いかける言葉』の「新しい」

**○　前時から取り組んできたまとめた内容をグループで確認し、説明する準備をする。**

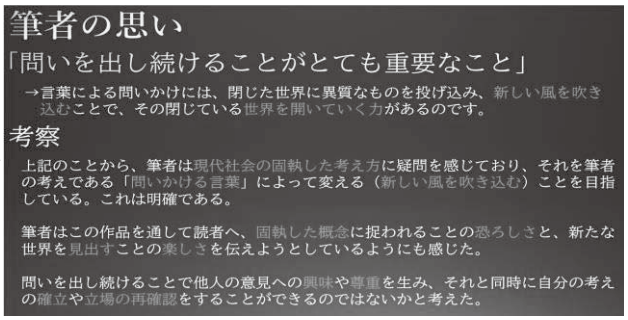
プレゼンテーションソフトの共同編集機能を活用しながら、ワークシートを見直したり、修正したりする。

ＩＣＴの活用

ワークシートの構成
①本文中の働きや効果　②筆者の思いや考え　③＋@（考えて見たい課題となる言葉）

探究する

「問いを出し続けることで他人の意見への興味や尊重を生み、同時に自分の考えの確立や立場の再確認することができるのでは」というところは、みんなに伝えよう。



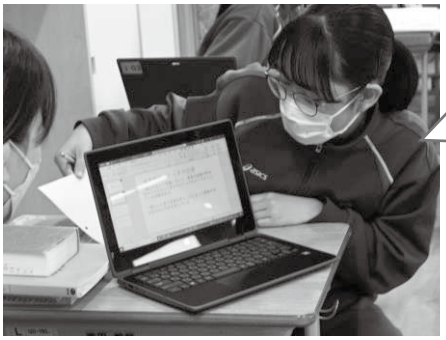
探究する

○　グループのメンバーを変えて交流する。

４人１グループになり、各グループで作成した資料を共有しながら、考えを伝え合う。説明を聞きながら、他のグループの考えをワークシートに書き留める。発表後は、全員が１つは質問する。

ＩＣＴの活用

・作成したプレゼンテーションやワークシートを活用しながら取り組むようにする。



『async』の筆者の思いとして、「新しい音楽」とは、他人の個性を表していて、「新しい音楽を聞くこと」を、様々な個性を認め合うことが必要であることを表していると考えました。

それは、「同期」との違いをどう捉えていますか。

振り返る

○　ルーブリックを再確認し、次時に行うパフォーマンス課題への見通しをもつ。

まとめていく中で、すごく本文を読み深めることができたのではないでしょうか。

共通点や相違点、共感できる点や納得できないところもあったと思います。

いよいよ、次はパフォーマンス課題に取り組みます。…

筆者の共通点や相違点は、交流を通して明確になったよね。私は、あの経験について書こうかな。今回は、Ａを目指して頑張れそうだ。

これから社会に出た時には、他者の意見に耳を傾けながらも自分の意見をもつことが大事だよな…。

探究する

○　パフォーマンス課題に取り組み始める。

ＩＣＴの活用

・作成したプレゼンテーションやワークシートを活用しながら取り組むようにする。

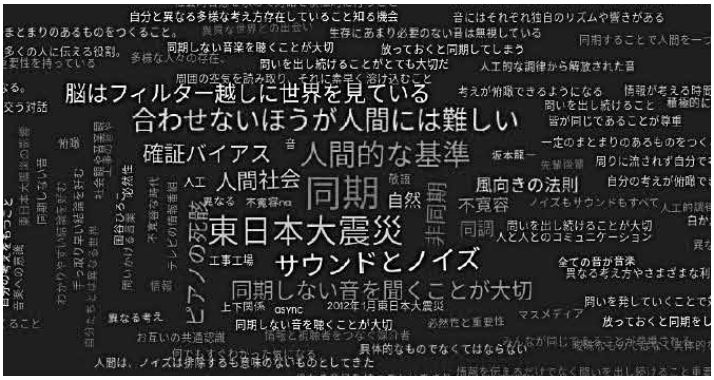
疑問に思う点として、時には共感することも必要だと思うな。

本当の気持ちに嘘をついて、周りの意見に合わせたことあったな。

## 3　ＩＣＴの活用場面と工夫

### (1)　Mentimeter（メンチメーター）

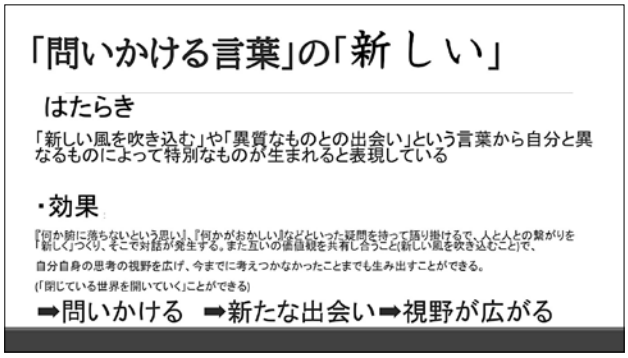
授業実践１では、２つの教材を通読したあと、筆者の考えの中心となる語句や社会との関わりのある語句を抜き出す学習場面がある。MentimeterのWord Cloudの機能を使い、タブレット端末から語句を打ち込むと、リアルタイムに大型TVに子どもたちの考えが表示され、かつ出現頻度の高いものは大きく表示される。個々の考えを可視化し、全体で表示画面を見ながら課題の焦点化をすることをねらいとした。

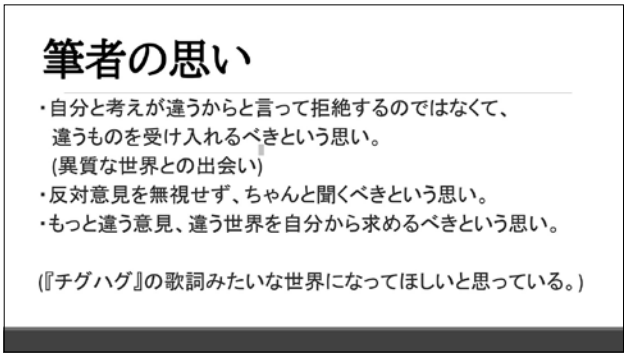


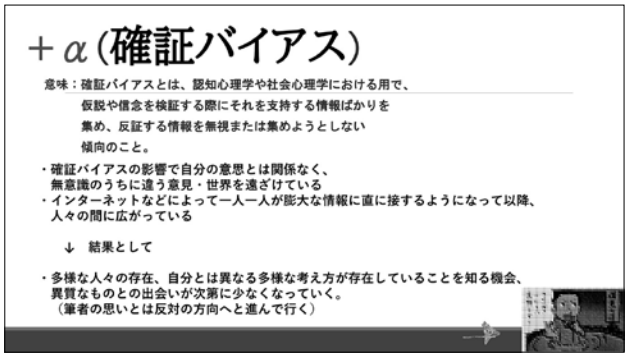

### (2)　PowerPoint

２時間目以降では、グループに分かれ、教材文で着目した言葉について考えをまとめ、交流する際にパワーポイントを活用した。共同編集機能を活用することで、作業の効率化を図るとともに、グループで考えを深めていくことをねらいとした主体的な課題解決活動である。また、ファイルを共有することができるため、他のグループのスライドを見ながら、考えを交流することとした。

パワーポイントの共同編集機能を生かしたグループ学習は対話を促進し、より深い理解へ向かう姿を見ることができた。



## 4　研究内容の検証

### (1)　子どもの見取り・聞き取り

#### ①　授業実践１

○　授業中の様子より

単元の１時間目に、教材文の中心となるキーワードについて考え、全体で共有したことで、今単元の課題とパフォーマンス課題が明確になっていた。また、必要感あるパフォーマンス課題を提示したことで、自分事として捉え、明確な見通しをもつとともに、意欲の向上につながっていた。

○　インタビューより

この単元ではどのようなことを学習するか、分かりましたか。

二人の筆者の考えを深く読むことです。

学習の途中にどのようなことを考えながら学習を進めていきますか。

筆者の意見を明確にしたり、筆者の意見に対して自分の考えをもったりしながら学習していけばいいと思います。

#### ②　授業実践２

○　授業中の様子より

前時より取り組んでいたワークシートの質が高く、異なるテーマのグループと共有したことで、それぞれの筆者の共通点と差異点が明確になっていた。パフォーマンス課題に対してどのように取り組めばよいのかを、ワークシートとルーブリックを参考に考えることができていた。

○　インタビューより

今までのパフォーマンス課題との違いはありますか。

パワーポイントを活用して、考えをまとめたり、友達の考えを交流したりする時間を作ってくれた。また別のグループに説明するため、個人でしっかり考えなければならなかったので、パフォーマンス課題に取り組みやすくなりました。

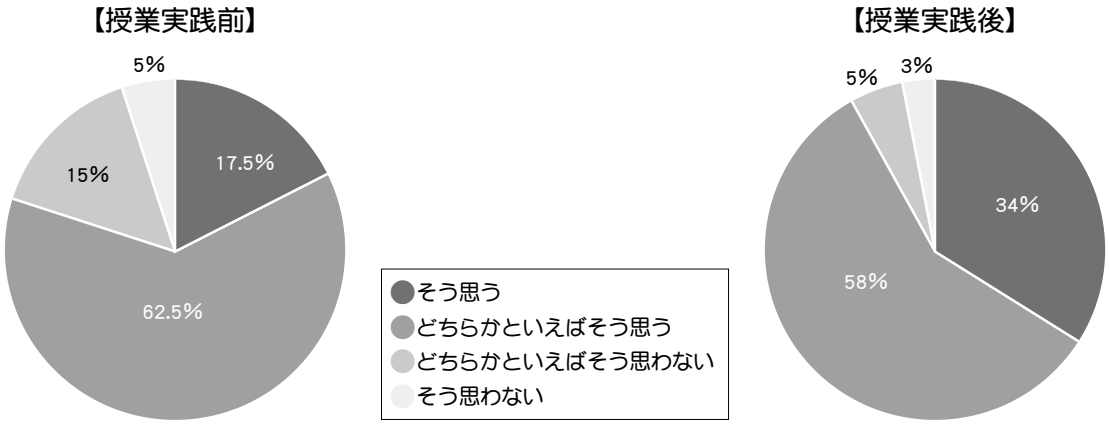
ルーブリックを自分で活用することはありましたか。

友達とパワーポイントのワークシートを作成するときに、どのようにまとめたらいいか考えるのに使いました。

パフォーマンス課題とルーブリックを単元の１時間目に提示したり、単元の途中において活用したりしたことで、課題と目標を理解し単元の途中においても意識していたことがうかがえる。また、単元全体を通して、筆者や自分の思いや考えを基に創造しようとする「深い学び」に向かう子どもの姿につなげていくことができたと考えられる。

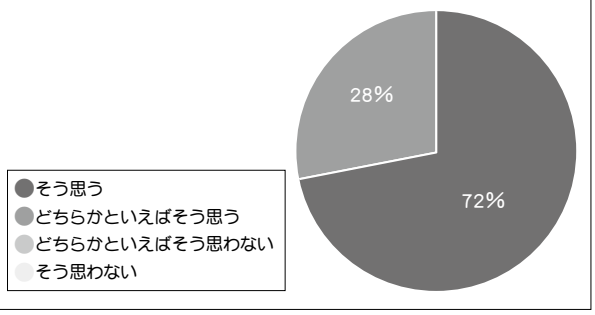
## ⑵　授業実践前後のアンケート結果から

理科の学習では、学習の途中や終わりに、それまでに自分ができるようになったことを、確かめることができていた。

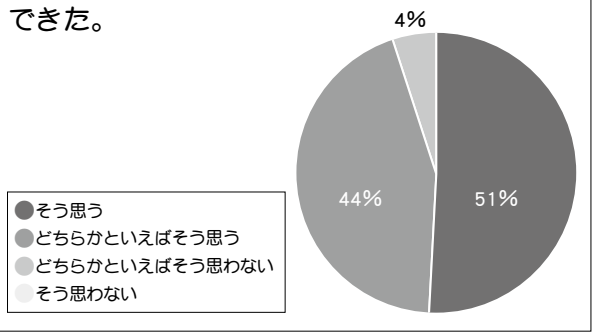



アンケートの結果から、実践前に比べ「そう思う」と回答した子どもが大幅に増え、全体として9割以上の生徒が肯定的な回答をしている。このことから、教師がルーブリックを早い段階に提示し、単元の途中においても活用することで、子どもが自己の学びの現状を把握しようとしたことが伺える。また、現状を把握しながら、考えを形成しようとするなど深い学びに向かう子どもの姿につながっていたのではないかと考察できる。

パフォーマンス課題では、課題を解決するために、自分で考えることができた。



パフォーマンス課題では、学習してきたことを生かし、考えをまとめて表現することができた。



上記どちらの授業実践後アンケートでも、ほぼ全員の子どもが「そう思う」か「どちらかといえばそう思う」と回答している。必要感のあるパフォーマンス課題を単元のはじめに提示したことで、学習の見通しをもつことができ、単元の途中においても学習内容を深く理解しようとしたり、自分の考えを形成したりしながら、課題解決へ向けて考えながら学習していたのではないかと考察できる。また、学びの実感につながっているのではないだろうか。

### ⑶　感想

#### ①　パフォーマンス課題実施後のアンケートから

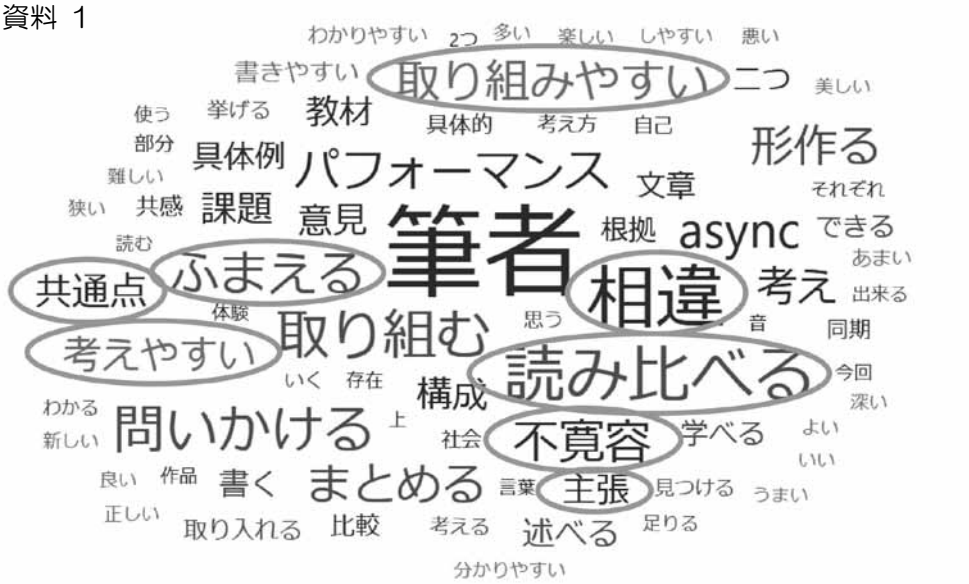
○　いつもより、ルーブリックが分かりやすかったが、文章にする力が自分にはまだ足りないところもあった。もう少し、よい文章が書けるようにしていきたい。また、記述表現力も少しずつ磨きをかけていきたい。

○　高校進学が目前となった今、これからの社会的・人間関係をどのように工夫して築いていくべきかを２つの本文を通して学ぶことができ、しっかり自分の意見をもって評価・批判ができたと思う。

○　今まで考えたことのないことを筆者の主張に合わせて考えることが出来た。パフォーマンス課題でも自己の体験や経験などを結び付けて取り組むことができた。パフォーマンス課題でゴールを明確にすることで取り組みやすくなった。

○　２人の筆者の考えの相違点をまとめ、自分の考えに広げていくことができた。課題に取り組む上で、２人の筆者の考えの相違点を見つけたりするのが結構楽しかった。

資料 1




資料１はアンケートの感想から、テキストマイニングを使って出現頻度の高い言葉を大きく表示したものである。今回の単元では、「事例と主張と関係付けて読むこと」や「文章を読み、社会や他者との関わりについて自分の考えを広げたり深めたりすること」が目標である。感想や資料から、２人の筆者の教材を、それぞれの「主張」に対する根拠を「不寛容」などという言葉に着目して「読み比べる」ことで、「相違」や「共通点」を見付けようとしていたことが伺える。また、２人の筆者の見方・考え方を「踏まえ」、自分の考えを形成していくパフォーマンス課題に取り組むことができていたことが分かる。

パフォーマンス課題に対しては、「分かりやすい」「取り組みやすい」「考えやすい」と感じている子どもが多いようである。

テキストマイニングとは
　文字列を対象としたデータマイニングのことである。通常の文章からなるデータを単語や文節で区切り、それらの出現の頻度や相関、出現傾向、時系列などを解析することで有用な情報を取り出す、テキストデータの分析方法である。

User Local AIテキストマイニング

### ②　単元全体の振り返りシートから

これらは、単元全体を振り返り、観点別に記述したものの一部である。記述内容から、ルーブリックに示された内容を基に、「筆者の伝えたいこと」を深く読み取りながら、「自己の体験」を重ねたり、「今後、社会でどうしていきたいか」を考えたりしている様子が伺える。

**思考・判断・表現（工夫したこと・発見したこと・活用したこと　など）**

見つけた共通点、相違点を自の体験と重ねながらパフォーマンス課題をおこなった。
不寛容な社会の中で過ごす際に、どのようなことが大切なのかを、自分なりに考えてまとめることができた。
「不寛容」や「寛容」などの語の意味を、国語辞典で調べて、筆者がどのようなことを伝えたいのか考えながら、工夫してまとめることができた。

**思考・判断・表現（工夫したこと・発見したこと・活用したこと　など）**

根拠のある文にするため、本文を引用したり、筆者の考えをもとにして説得力をもたせられるようにした。
キーワードに着目し、考えを広げたりして、筆者の主張などを一層深く読み取れるようにした。
自分の考えを書く際に筆者の考えをふまえて、今後人間社会でどうしていきたいかや目指していきたい人との関わり方などを書き、文構成として読み手が分かりやすく、内容が広がっていくものになるよう工夫した。

### (4)　成果物から

これは、ある子どものパフォーマンス課題のワークシートである。2人の筆者の共通点や賛同できない点を整理した上で、自分のものの見方や考え方を述べている。最後には、社会や今後の自分の在り方について考えを論理的にまとめている。

文章を評価し、自分の考えを深めよう③

（第6時）それぞれの筆者のものの見方や考え方を比較し、自分の社会や人に関する考えをまとめよう。

◎これからの高校進学や就職など社会に飛び立つ皆さんは、社会や人とどのように関わっていきますか。二つの教材から得た知識や「不寛容」などの言葉から得たそれぞれの筆者のものの見方や考え方を踏まえて、社会や人との関わり方について、自分の考えをまとめよう。

(1)共感できる点
・自分の意見をもつことが大切
・けげんそうな顔をされる
・新たな対話を生み出す

(2)疑問に思う点や賛同できない点
同期しないことが重要と最終的にはある程度同期させることが必要

(3)自分の考え
どちらの文でも多数の意見に簡単に同期しないことが主張の中心になっている。同期することが重要視される社会では少数意見に対して不寛容になり、新たな意見や対話も生まれにくい。そこであえて同期せずに異なる世界との出会いを生み出すことの重要性が述べられている。これらのことは実生活でも体験することがあるだろう。簡単に同期しない風潮は今後の世界でより一層重要視されていくだろう。
しかし、同期することが絶対に悪いことだと考えてはいけないだろう。対話としている全員が全く異なる意見を主張し続けていればまとまるはずの対話もいつまでたってもまとまらなくなってしまう。既存の意見に対しては完全に反対するのではなく、少し異なった視点からの疑問を問いかけていくべきではないだろうか。
これからの高校生活では小・中学校よりも高度な対話が行われるだろう。しかし、いずれにしてもある程度同期した納得解を求める必要がある。そこで、多数意見に偏りすぎない場合には少し異なった風向きの問いや意見を投げかけ、新たな対話の渦をより多くの人が納得する同期へと導く役割を担っていくことが必要ではないだろうか。
（段落目の最後につけたし）「SNS」では多数への同期からの解放ということが述べられている一方で、「問いかける言葉」では「同期しないこと」ではなく問いかける言葉によって思考を明確にすること、新たな会話を発生させることが述べられている。二人の筆者の主張にはこのような相違的なちがいがあると考えた。

## 4　共同研究員による単元計画例

### (1)　単元計画について

単元計画例（中学校）は十勝教育研究所のホームページからダウンロードすることができます。（https://www.tokyoken.net）

| 研究所名 | 共同研究員 | 学年 | 教　科 | 単元名 | ページ |
|---|---|---|---|---|---|
| 士幌町教育研究所 | 鈴木日向子 | ３年 | 社会科 | 第２章　個人の尊重と日本国憲法 | P37 |
| 鹿追町立教育研究所 | 梅原　翔太 | ２年 | 社会科 | 第３章　日本の諸地域　７節　北海道地方 | P38 |
| 豊頃町教育研究所 | 関谷昂二郎 | ３年 | 英語科 | Lesson 6　Why do We Have to Work? | P38 |
| 浦幌町教育研究所 | 松林　一彦 | １年 | 社会科 | 第２章　世界の諸地域　２節　ヨーロッパ州 | P39 |
| 本別町総合教育研究所 | 乾　　克彦 | １年 | 理　科 | １章　光による現象 | P39 |
| 足寄町生涯学習研究所 | 山田　優里 | ２年 | 国語科 | 敦盛の最期ー平家物語ー | P40 |

| 教科名 | 中学校　社会科（公民分野） | 学　年 | ３学年 |
|---|---|---|---|
| 単元名 | 第２章　個人の尊重と日本国憲法 | 生徒数 | 31名 |
| | | 授業者 | 鈴木日向子 |

**１「深い学び」に向かう子どもの姿**

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿

②　情報を精査して考えを形成しようとする姿

**２　単元の目標と観点別評価規準**

・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解する。
・民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解する。
・日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解する。
・日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解する。
・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現する。
・人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。<br>・民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。<br>・日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解している。<br>・日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。 | ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。 |

**３　単元で働かせる見方・考え方**

第２章の学習内容を、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、対話的な活動を通じ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現する。

**４　パフォーマンス課題**（スライド・発表）

「基本的人権スライド」を作ろう
チーム：「平等権」「自由権」「社会権」「環境権・自己決定権」「知る権利・プライバシーの権利」
１チーム４～５名に分かれる。スライドは相談して表紙以外に１人１枚以上は作成する。

**５　ルーブリック**

| | |
|---|---|
| A+ | 対立と合意、効率と公正、公人の尊重と法の支配などに着目して、日本国憲法において、人権保障が大切にされていたり、社会の変化に伴って新しい人権が認められたりしてきた理由について、多面的・多角的に考察している。また、私たちが社会とどのように関わっているか、関わるべきか具体的に考えている。 |
| A | 対立と合意、効率と公正、公人の尊重と法の支配などに着目して、日本国憲法において、人権保障が大切にされていたり、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきたりした理由について、多面的・多角的に考察している。また、私たちが社会とどのように関わっているか、考えている。 |
| B | 対立と合意、効率と公正、公人の尊重と法の支配などに着目して、日本国憲法において、人権保障が大切にされていたり、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきたりした理由について、多面的・多角的に考察している。 |
| C | Ｂの基準を満たしていない。 |

**６　ＩＣＴの活用の場面と工夫**

パワーポイントのスライド作成を通して疑問に思ったことや更に調べたくなったことについて、ＩＣＴを活用して調べる場面を設定する。また、チームでスライドを作成し、他のチームと交流することで、新たな知識を習得することができるようにする。

**７　単元の指導と評価の計画（全 13 時間）**

| 時間 | 学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 評価の観点【　】評価規準 |
|---|---|---|
| 1～5 | ◆人権と憲法にはどのような関係があるのか。<br>○　人権の考え方の歴史を学習しながら、様々な人権について考察する。<br>◆日本国憲法はどのような考え方を基づいてつくられているのか。<br>○　大日本帝国憲法との比較をもとに、立憲主義とはどのような考え方かを学習する。<br>◆なぜ国民主権は大切なのか。<br>○　国民主権とはどのような考え方で、その考え方はどのような制度に反映されているかを考察する。<br>◆平和主義を掲げる日本は国際社会でどのような役割を果たしていくべきか。<br>○　平和主義とはどのような考え方で、日本が抱える安全保障の考え方について理解し考察する。<br>◆なぜ基本的人権を保障することが重要なのか。<br>○　法の下の平等と個人の尊重という考え方について理解し、人権を保障する大切な考え方であることを理解する。 | 【知・技】<br>・人権思想と憲法の歴史の学習を踏まえ、人権と憲法の関係から法の支配について理解している。（ワークシート）<br>・日本国憲法の三つの基本原理や国民主権、日本が平和主義を掲げる理由、個人の尊重について、本文の読み取りを通して理解している。（ワークシート）<br>【思・判・表】<br>・日本国憲法が大切にされてきた理由について、多面的・多角的に考察している。（ワークシート）<br>【態度】<br>・国民主権が重要な理由を、法の支配を考察することを通して、主体的に社会に関わろうとしている。（観察） |
| 6～9 | **★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示**<br>◆基本的人権にはどのようなものがあるか（1）<br>○　班に分かれてスライド作りをする。<br>（考察・レイアウト→役割分担決め→スライド作り）<br>①平等権　②自由権　③社会権　④環境権・自己決定権<br>⑤知る権利・プライバシーの権利<br><br>**★パフォーマンス課題（ワークシート・口頭説明）**<br>**★ルーブリックの活用**<br>**★ＩＣＴの活用** | 【知・技】<br>・基本的人権の種類とその権利が主張された経緯や背景、その権利を保障する法律などを理解している。（ワークシート）<br>【思・判・表】<br>・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。<br>（ワークシート・口頭説明）<br>【態度】<br>・人権保障が大切にされている理由や社会の変化に伴って新しい人権が認められてきたりした理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。（ワークシート・観察） |
| 10～13 | ◆基本的人権にはどのようなものがあるか（2）<br>○　班に分かれてスライド発表をする。<br>○　人権についてのプリントに取り組み、理解を深める。 | 【知・技】<br>・他の人が作成したスライドやその発表を見て、基本的人権について理解している。（ワークシート、プリント）<br>【態度】<br>・人権保障が大切にされている理由や社会の変化に伴って新しい人権が認められてきたりした理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。（スライド、観察） |

## Ⅳ　授業実践（中学校）

| 教科名 | 中学校　社会科　地理的分野 | 学　年 | 2学年 |
|---|---|---|---|
| 単元名 | 第３章　日本の諸地域　７節　北海道地方 | 生徒数 | 41名 |
| | | 授業者 | 梅原　翔太 |

**1「深い学び」に向かう子どもの姿**

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿
③　問題を見いだして解決策を考えようとする姿

**2　単元の目標と観点別評価規準**

・北海道地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。
・自然環境を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生する課題を理解する。
・北海道地方において自然環境の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生する課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察、表現する。
・北海道地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・北海道地方について、その地域の特色や地域の課題を理解している。<br>・自然環境を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生する課題を理解している。 | ・北海道地方において、自然環境の成立の条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生する課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・北海道地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |

**3　単元で働かせる見方・考え方**

北海道地方の学習において、自然環境の成立の条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生する課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察する。

**4　パフォーマンス課題**（パンフレット）

都道府県魅力度ランキングで北海道が 13 年連続１位を取ることができた理由とは？（※ブランド総合研究所）
北海道地方の魅力をパンフレットで表現しよう。

**5　ルーブリック**

| | |
|---|---|
| A | 北海道地方の自然環境の成立の条件、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、人を引き付けている理由を多面的、多角的に考察し具体的に表現している。 |
| B | 北海道地方が人を引き付けている理由を考察し表現している。 |
| C | B 基準に達していない。 |

**6　ＩＣＴの活用の場面と工夫**

・デジタル教科書、タブレットドリル、ワークシートなどでタブレットを使用している。
・パフォーマンス課題に取り組む際には、既習事項を見直すだけでなくインターネットなども活用し、更に多面的、多角的な視点からパフォーマンス課題解決に向け取り組めるように工夫する。

**7　単元の指導と評価の計画（全５時）**

| 時間 | 学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 評価の観点【 】評価規準 |
|---|---|---|
| 1 | 1　北海道地方をながめて<br>◆北海道の特色とは？<br>**★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示** | 【知・技】<br>・日本の約 20%を占める広大な面積、冷帯に属する気候、盛んな農業、少ない人口などの特色を理解し、その知識を身に付けている。（確認テスト） |
| 2 | 2　自然の制約に適応する人々の工夫<br>◆北海道地方に住む人々の工夫とは？<br>**★ルーブリックの活用**<br>※　パフォーマンス課題のカギになるキーワードを確認する。 | 【知・技】<br>・冬の寒さや火山活動による厳しい自然環境に対して、人々がどのような工夫を行っているのかを資料などから適切に読み取っている。（確認テスト）<br>【思・判・表】<br>・北海道地方では、冬の寒さや火山、豊かな海を利用した産業が行われていることを多面的・多角的に考察し、表現している。（確認テスト） |
| 3 | 3　自然の制約や社会の変化を乗りこえる<br>◆北海道地方の農業の特色とは？<br>**★ルーブリックの活用**<br>※　パフォーマンス課題のカギになるキーワードを確認する。 | 【知・技】<br>・農業に適さない気候や土壌の問題に対して、人々がどのように対応し、乗り越えて農業を営んできたか理解し、その知識を身に付けている。（確認テスト）<br>【思・判・表】<br>・現在、北海道の人々が直面している課題に対して、どのように対応すべきかを多面的・多角的に考察している。（ワークシート） |
| 4 | 4　自然の特色を生かした産業<br>◆北海道地方の観光業の取り組みとは？<br>**★ルーブリックの活用**<br>※　パフォーマンス課題のカギになるキーワードを確認する。 | 【知・技】<br>・気候の特色によって、北海道地方への観光客が８月に多いことを理解している。（確認テスト）<br>【思・判・表】<br>・北海道地方の観光業について、広がるエコツーリズムなどの持続可能な社会づくりと関連付けて考察し、表現している。（ワークシート） |
| 5 | 北海道地方のまとめ<br>◆都道府県魅力度ランキングで北海道が 13 年連続１位を取ることができた理由とは？北海道地方の魅力をパンフレットで表現しよう。<br>**★パフォーマンス課題（パンフレット）・ＩＣＴの活用** | 【知・技】<br>・自然環境を中核とする考察の仕方を基に、学んできた北海道地方の地域的特色やそこで生じる課題をパンフレットにまとめて振り返り、理解している。（パンフレット）<br>【思・判・表】<br>・北海道地方は、自然環境の影響を受けつつ、たくさんの農作物を出荷したり、観光客を引き付けたりしている理由を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を生かして、「パンフレット」という形で表現している。（パンフレット）<br>【態度】<br>・主体的に探究課題を追究し、社会に関わろうという態度を示している。（パンフレット） |

| 教科名 | 中学校　英語科 | 学　年 | 3学年 |
|---|---|---|---|
| 単元名 | Lesson6　Why do We Have to Work? | 生徒数 | 26名 |
| | | 授業者 | 関谷昂二郎 |

**1「深い学び」に向かう子どもの姿**

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿
③　問題を見いだして解決策を考えようとする姿

**2　単元の目標と観点別評価規準**

・話合い活動において、相手の意見の要点を聞き取り、自分の考えを整理しながら自分の意見を述べることができる。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・意見を述べるときの基本的な表現を理解している。(SI)<br>・日常的または社会的な話題について、意見を述べるときの基本的な表現を利用して伝え合う技能を身に付けている。(SI)<br>L:聞く　R:読む　W:書く<br>SP:話すこと〔発表〕<br>SI:話すこと〔やり取り〕 | ・あるテーマについての他者の意見を知り自分の意見や考えを伝えるために、話を聞いて、要点を捉えている。(L)<br>・相手の意見を聞いて自分の意見を深めたり、自分の意見を伝えたりするために、日常的または社会的な話題について自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。(SI) | ・あるテーマについての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、話を聞いて要点を捉えようとしている。(L)<br>・相手の意見を聞いて自分の意見を深めたり、自分の意見を伝えたりするために、日常的または社会的な話題について自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えようとしたりしている。(SI) |

**3　単元で働かせる見方・考え方**

外国語やその背景にある文化を理解して、話合い活動にて意見を述べるときの表現に着目し、相手の意見を聞いて自分の意見を深めたり、伝えたりするために、自分の意見を整理しながら考えを形成し、再構築する。

**4　パフォーマンス課題**（ペアでの話合い）

10 個のトピックから無作為に３つ選び、それについてペアで意見を伝え合おう。
※　トピックは単元計画の１時間目に予め提示しておき、授業内で準備・練習を行う。

**5　ルーブリック**

| | |
|---|---|
| Interaction | A：準備したプリントを見なくても、相手と意見を伝え合っている。<br>B：準備したプリントを見ながら、相手と意見を伝え合っている。<br>C：準備したプリントを見ても、相手と意見を伝え合えていない。 |
| Accuracy | A：適切な表現方法を使い、会話を続けている。<br>B：表現方法に多少の誤りがあるが、相手と意思の疎通ができる会話をしている。<br>C：表現方法に誤りが多く、情報が伝わっていない。 |
| Reaction | A：相手の意見について、相づちを打ったり、それに対しての自分の考えや感想を伝えたりしながら反応を示している。<br>B：相手の意見について、相づちを打つなどの反応を示している。<br>C：相手が話をしても、反応を示さず、自分の意見を伝えるだけになっている。 |

**6　ＩＣＴの活用の場面と工夫**

パフォーマンステストに向けての練習の中で、話合い活動の様子を動画で撮る。声の大きさ、発音、相づちなどの反応を客観的に見ることで、改善へつなげる。また、ロイロノートの付箋機能を利用し、子どもたちが出し合った「相づち表現」を共有することで、自分の話合い活動に生かすことができるようにする。

**7　単元の指導と評価の計画（全８時間）**

| 時間 | 学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 評価の観点【 】評価規準 |
|---|---|---|
| 1 | Part 1<br>◆話合いの始め方、自分の意見の言い方について理解する。<br>○　導入での言語活動や、プリントを用いての練習問題、話合い活動<br>**★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示**<br>（３つのテーマ決め） | 【知・技】<br>・話合いの始め方と自分の意見の言い方について理解している。（プリント、観察） |
| 2 | Part 1<br>◆話合いの始め方、自分の意見の言い方を使って話合いをする。<br>○　Lesson6-1 教科書本文を用いての新出単語、重要表現や重要語句の確認 | 【思・判・表】<br>・前時の内容を踏まえて、自分の考えを簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。（観察） |
| 3 | Part 2<br>◆相手への話の振り方、話し始めのワンクッションの言い方について理解する。<br>○　導入での言語活動、プリントを用いての練習問題、既習事項との関連付けを通しての定着、話合い活動 | 【知・技】<br>・重要表現を理解し、意見を述べるときの基本的な表現を利用して伝え合う技能を身に付けている。（プリント、観察） |
| 4 | Part 2<br>◆相手に話を振りながら、話合いをする。<br>○　Lesson6-2 教科書本文を用いての新出単語、重要表現や重要語句の確認 | 【思・判・表】<br>・前時の内容を踏まえて、他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために話を聞いて、要点を捉えている。（観察）<br>【態度】<br>・他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、話を聞いて要点を捉えようとしている。（観察） |
| 5 | Part 3<br>◆相手の意見への賛成・反対の仕方、理由の述べ方を理解する。<br>○　導入での言語活動、プリントを用いての練習問題、話合い活動 | 【態度】<br>・今までの内容を踏まえつつ、重要表現を使って相手の意見に対しての自分の意見を伝えようとしている。（プリント・観察） |
| 6 | Part 3<br>◆相手の意見に対しての自分の考えを述べる。<br>○　Lesson6-3 教科書本文を用いての新出単語、重要表現や重要語句の確認 | 【思・判・表】<br>・前時の内容を踏まえて、自分の考えを簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。（観察） |
| 7 | Tips 7 for Speaking<br>◆即興で自分の意見を伝えよう。<br>○　教科書 Tips を参考にしながら、即興で自分の意見を伝える活動<br>**★ルーブリックの活用・ＩＣＴの活用** | 【思・判・表】<br>・会話をする際のポイントに気を付けながら、事実や考えを即興で伝えている。（観察） |
| 8 | ◆Lesson6 まとめよう。<br>**★パフォーマンス課題（ペアでの話合い）**<br>○　パフォーマンステスト<br>○　振り返りと今後の取組の確認 | 【思・判・表】<br>・相手の意見を聞いて自分の意見を深めたり、自分の意見を伝えたりするために、３つの話題について自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。（観察） |

| 教科名 | 中学校　社会科（地理的分野） | 学　年 | １学年 |
|---|---|---|---|
| 単元名 | 第２章　世界の諸地域<br>２節　ヨーロッパ州―国どうしの統合による変化― | 生徒数 | 31名 |
| | | 授業者 | 松林　一彦 |

1「深い学び」に向かう子どもの姿

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿
②　情報を精査して考えを形成しようとする姿

2　単元の目標と観点別評価規準

・ヨーロッパ州で顕在化している地球的課題は、それらが見られる地域の地域的特色の影響を受け、現れ方が異なることを理解する。
・ヨーロッパ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解する。
・ヨーロッパ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目し、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察、表現する。
・ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を、主体的に追究しようとする。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・ヨーロッパ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。<br>・ヨーロッパ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解している。 | ・ヨーロッパ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を、主体的に追究しようとしている。 |

3　単元で働かせる見方・考え方

地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州の広がりや地域内の結び付きに着目し、地域的特色と関連付け多面的・多角的に考察する。

4　**パフォーマンス課題**（ディスカッション・ワークシート）

ヨーロッパ州の学習をまとめ、話合いをしよう
「ヨーロッパ州ではなぜ、統合をめぐるさまざまな動きがみられるのか」についてこれまでの学習で使用した資料から考え、「統合のきっかけ」や「統合がもたらした影響や課題」をそれぞれまとめ、「今後も統合を進めるべきか」についてまとめ、ディスカッションを行う。

5　ルーブリック

| | |
|---|---|
| A | ヨーロッパ州の統合をめぐる様々な動きを、これまでの学習の地球的課題や州域内の結び付きから多面的・多角的に考察し、それらを基に自分の考えを述べている。 |
| B | ヨーロッパ州の統合をめぐる様々な動きを、資料や知識を活用して考察し、自分の意見を述べている。 |
| C | B 基準を満たしていない（ヨーロッパ州の統合をめぐる様々な動きを、資料や知識を活用して考察することが不十分であり、自分の意見を述べていない）。 |

6　**ＩＣＴの活用の場面と工夫**

タブレットを活用し、まとめをシートに入力する場面を設定することで、ディスカッションをする際にも有効に活用することができるようにする。

7　単元の指導と評価の計画（全５時間）

| 時間 | 学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 評価の観点【 】評価規準 |
|---|---|---|
| 1 | 1　ヨーロッパ州をながめて<br>◆ヨーロッパ州の自然環境や文化、人口には、どのような特徴が見られるだろうか？<br>○　ヨーロッパ州の自然、人口、民族、産業の特色や雨温図などの資料を通し、統合の背景を含む基礎的・基本的な知識を身に付ける。<br>**単元を通した課題**<br>《ヨーロッパ州では、なぜ統合をめぐるさまざまな動きが見られるのだろうか？》<br>**★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示**<br>○　パフォーマンス課題とルーブリックを確認し、単元を見通す。 | 【知・技】<br>・ヨーロッパ州には、民族を基にした小国が多いこと、地域により異なる農業が盛んなこと、共通の文化が見られることなどを概観し、ヨーロッパ統合の背景を理解している。（ワークシート）<br>【態度】<br>・ヨーロッパ州を概観して設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究しようとしている。（観察） |
| 2 | 2　ヨーロッパ統合の動き<br>◆ヨーロッパでは、どのように統合が進んだのだろうか？<br>○　ヨーロッパ州で統合されてきた内容を、写真、分布図などの資料や、統合を進めてきた理由や利点について、EU、アメリカ、日本を比較した資料を基に考察する。 | 【知・技】<br>・ヨーロッパ州が統合を進めてきたことを、国境をこえた交通網や通勤・買い物、共通通貨などのさまざまな資料を関連付けることで読み取ることができる。（ワークシート）<br>【思・判・表】<br>・ヨーロッパ州の国々が国境をこえて統合することの利点について、産業、人々の生活、交通の三つの視点から説明している。（ワークシート） |
| 3 | 3　持続可能な社会に向けて<br>◆ヨーロッパでは、環境問題を改善するために、どのような取り組みが行われているだろうか？<br>○　環境に配慮した人々の活動や、環境問題での国境を越えた協力がなされてきた背景を、地域的特色を踏まえ資料などから考察する。 | 【知・技】<br>・ヨーロッパ州の環境に配慮した消費生活やエネルギー利用、観光に対する考え方などを資料から読み取り、理解している。（ワークシート）<br>【思・判・表】<br>・ヨーロッパ州で起こっている国境を越えた環境問題について、EU 共通の取組の視点から考察している。（ワークシート） |
| 4 | 4　EU がかかえる課題<br>◆ヨーロッパでは統合により、どのような変化や課題が見られるだろうか？<br>○　EU 加盟国間の格差や対立について資料から読み取り、ヨーロッパにおける産業の仕組みの変化や移民・難民などの EU の抱える課題について考察する。 | 【知・技】<br>・EU 各国の一人当たりの国民総所得や、ヨーロッパに居住する外国人の出身地の主題図から、EU が抱える課題を読み取っている。（ワークシート）<br>【思・判・表】<br>・ヨーロッパが統合することの問題点や課題を、EU 加盟国間の対立や EU と他地域との関係に着目して考察している。（ワークシート） |
| 5 | 5　ヨーロッパ州の学習をまとめ、ディスカッションをしよう<br>◆ヨーロッパ州をまとめ、話合いをしてみよう。<br>**★パフォーマンス課題（ワークシート・口頭説明）**<br>**★ＩＣＴの活用**<br>○　「ヨーロッパ州ではなぜ、統合をめぐるさまざまな動きがみられるのか」についてこれまでの学習で使用した資料から考え、「統合のきっかけ」や「統合がもたらした影響や課題」をそれぞれまとめ、「今後も統合を進めるべきか」についてまとめ、ディスカッションを行う。 | 【知・技】<br>・これまで学んできたヨーロッパ州の地域的特色を踏まえて、地域統合が進んできた背景や良い影響、課題を図にまとめて振り返り、ヨーロッパ州の地域的特色を理解している。（ワークシート）<br>【思・判・表】<br>・ヨーロッパ州において、地域統合が進んできた背景や良い影響、課題を踏まえて、今後どのようにしていくべきかについて多面的・多角的に考察し、表現している。（ワークシート・口頭説明）<br>【態度】<br>・自らの学習を振り返りながら、粘り強く考察することを通して主体的に探求課題を追究し、社会に関わろうとしている。（口頭説明） |

| 教科名 | 中学校　理科（第１分野：エネルギー） | 学　年 | １学年 |
|---|---|---|---|
| 単元名 | 光・音・力による現象<br>１章　光による現象 | 生徒数 | ８名 |
| | | 授業者 | 乾　　克彦 |

1「深い学び」に向かう子どもの姿

①　知識を相互に関連付けてより深く理解しようとする姿

2　単元の目標と観点別評価規準

・光に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の反射や屈折、凸レンズの働きについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けること。
・光に関する事物・現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働きの規則性や関係性を見いだして表現すること。
・光に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとすること。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・光に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の反射や屈折、凸レンズの働きについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 | ・光に関する事物・現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働きの規則性や関係性を見いだして表現している。 | ・光に関する事物・現象に進んで関わろうとしたり、物理現象について、問題を見いだそうとしたりしながら、科学的に考えようとしている。 |

3　単元で働かせる見方・考え方

光に関する事物・現象について、光の進み方などに着目して、光の反射や屈折、凸レンズの働きの規則性や関係性を比較したり、関連付けたりして考える。

4　**パフォーマンス課題**（実験レポート）

凸レンズの像のでき方について実験レポートを作成しよう
重さや手触り等の実感がない光の法則の理解はとても難しいものです。空気⇒ガラス　ガラス⇒空気　の光の進み方について学びます。光の屈折を原理とする凸レンズの像のでき方の実験を行い、実験手順と結果、考察について、実験レポートを作成しましょう。

5　ルーブリック

| | |
|---|---|
| A | 屈折の原理と凸レンズの関係性を考察し、原因や関係していること示して問題を見いだいして表現している。 |
| B | 屈折の原理と凸レンズの関係性を考察し、得られた気付きや疑問を基に、問題を見いだして表現しているが、原因までは表現していない。 |
| C | Ｂの基準を満たしていない（得られた気付きや疑問を基に問題を見いだして表現していない）。 |

6　**ＩＣＴの活用の場面と工夫**

・パワーポイント
水によってコインの見え方が変わる現象。光が空気中→水中、水中→空気中へ進む道筋の説明。
（光の進み方の方向性と屈折のイメージ形成のため）

7　単元の指導と評価の計画（全９時間）

| 時間 | 学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 評価の観点【 】評価規準 |
|---|---|---|
| 1<br>2 | ◆空気中の光の進み方はどうなっているでしょうか。<br>○　光源装置や鏡、分度器を使って、入射角を変えたときの反射角を測定する。<br>○　入射角と反射角の関係を考える。<br>○　鏡で光がはね返るときの規則性を理解する。<br>○　物体が見えるしくみを理解する。<br>**★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示** | 【知・技】<br>・光源装置や鏡、分度器を使って、入射角を変えたときの反射角を測定することができる。（観察・ワークシート）<br>・鏡で光がはね返るときの規則性を理解できる。（観察・ワークシート）<br>・物体が見える仕組みを理解できる。（ワークシート）<br>【思・判・表】<br>・入射角と反射角の関係を考察している。（ワークシート） |
| 3<br>～<br>5 | ◆異なる物質での境界での光の進み方はどうなっているでしょうか。<br>○　水によってコインの見え方が変わる現象について考える。<br>○　異なる物質の境界面における光の進み方の理由を考える。<br>○　光が空気中から水中へ、また水中から空気中へ進むとき、境界面で屈折する角度を測定する。<br>○　入射角と屈折角の関係を考えよう。<br>○　光が空気中から水中などへ進むときの規則性を理解する。<br>○　光が水中などから空気中へ進むときの規則性を理解する。<br>○　白色光にはいろいろな色の光が混ざっていることを理解する。<br>**★ルーブリックの活用・ＩＣＴの活用** | 【知・技】<br>・光が空気中から水中へ、また水中から空気中へ進むとき、境界面で屈折する角度を測定することができる。（観察・ワークシート）<br>・光が空気中から水中などへ進むときの規則性が理解できる。（観察・ワークシート）<br>・光が水中などから空気中へ進むときの規則性が理解できる。（観察・ワークシート）<br>・白色光にはいろいろな色の光が混ざっていることが理解できる。（ワークシート）<br>【思・判・表】<br>・異なる物質の境界面における光の進み方に着目し、理由を考えて表現している。（実験レポート）<br>・入射角と屈折角の関係を考察している。（実験レポート）<br>【態度】<br>・水によってコインの見え方が変わる現象について問題を見いだそうとしている。（振り返りシート） |
| 6<br>～<br>8 | ◆凸レンズはどのようなはたらきをするのでしょうか。<br>○　凸レンズを使ったときの物の見え方について調べ、問題を見出そうとする。<br>○　凸レンズによる様々な現象を観察する過程で、凸レンズを通る光の進み方に着目し、像ができる理由を考え表現する。<br>○　凸レンズを通る光の進み方を基に、どの位置にどのような像ができるのかを作図によって求める。<br>○　凸レンズによってできる像を調べる実験を行い、物体と凸レンズの距離によって像の位置や大きさ、向きが変わることを調べる。<br>○　実験結果を基に、実像と虚像のできる条件を見いだす。<br>○　凸レンズによる像のでき方の規則性を理解する。<br>○　凸レンズの働きについて振り返り、凸レンズを通る光の進み方と像のでき方について科学的に考える。<br>**★ルーブリックの活用** | 【知・技】<br>・凸レンズによってできる像を調べる実験を行い、物体と凸レンズの距離によって像の位置や大きさ、向きが変わることを調べることができる。（観察・ワークシート）<br>・凸レンズによる像のでき方の規則性を理解する。（ワークシート）<br>・凸レンズを通る光の進み方をもとに、どの位置にどのような像ができるのかを作図によって求めることができる。（ワークシート）<br>【思・判・表】<br>・凸レンズによるさまざまな現象を観察する過程で、凸レンズを通る光の進み方に着目し、像ができる理由を考え表現している。（ワークシート）<br>【態度】<br>・凸レンズを使ったときの物の見え方について調べ、問題を見いだそうとしている。（観察・ワークシート） |
| 9 | **★パフォーマンス課題（実験レポート）**<br>◆凸レンズの像のでき方について実験レポートを作成しよう。 | 【思・判・表】<br>・実験結果を基に、実像と虚像のできる条件や関係性について、気付きや疑問を基に、問題を見いだして表現している。（実験レポート）<br>【態度】<br>・凸レンズのはたらきについてふり返り、凸レンズを通る光の進み方と像のでき方について科学的に考えようとしている。（実験レポート） |

## Ⅳ　授業実践（中学校）

| 教科名 | 中学校　国語科 | 学　年 | 2学年 |
|---|---|---|---|
| 教材名 | 敦盛の最期－平家物語－ | 生徒数 | 50名 |
| | | 授業者 | 山田　優里 |

1「深い学び」に向かう子どもの姿

④　思いや考えを基に創造しようとする姿

2　単元の目標と観点別評価規準

・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。
・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えることができる。
・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 | ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。 | ・進んで「平家物語」を読み、学習課題に沿って引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしている。 |

3　単元で働かせる見方・考え方

古典独特の表現に着目し、作品の内容や登場人物の心情を読み取り、読み取った内容が効果的に伝わるような朗読の工夫を考える。

4　**パフォーマンス課題**（朗読・ワークシート）

「敦盛の最期」の世界を朗読で表現しよう。
「敦盛の最期」の物語の展開や登場人物の心情を読み取り、それが効果的に伝わるような朗読の工夫を考え、表現しよう。

5　ルーブリック

| | |
|---|---|
| A | 古典独特の表現に着目し、記述を根拠に、物語の展開や登場人物の心情の変化を深く読み取り、朗読の工夫を考えている。 |
| B | 古典独特の表現に着目し、記述を根拠に、物語の展開や登場人物の心情の変化を読み取り、朗読の工夫を考えている。 |
| C | Bの基準を満たしていない。 |

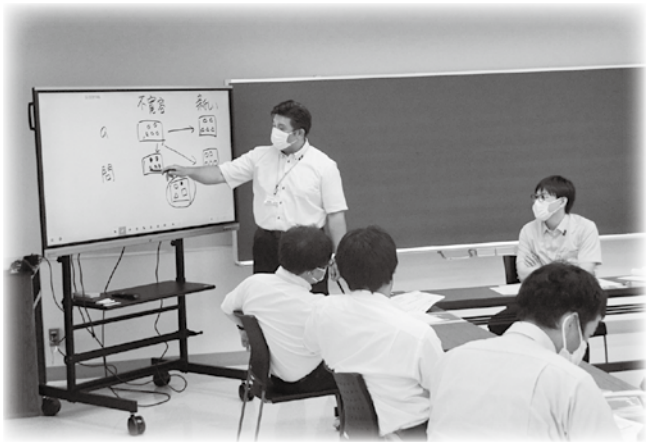
6　**ＩＣＴの活用の場面と工夫**

動画撮影：朗読の様子を撮影し、変容を確認できるようにする。
Teams：共同編集で台本を作成し、作業の効率化、グループでの考えの深化を図る。

7　単元の指導と評価の計画（全6時間）

| 時間 | 学習課題（◆）　主な学習活動（○） | 評価の観点【　】評価規準 |
|---|---|---|
| 1 | ◆「平家物語」について知ろう。<br>○　「NHK10min.」を見て「平家物語」の概要を知る。<br>○　冒頭部分の視写と音読を行い、歴史的仮名遣いの復習をする。<br>**★パフォーマンス課題・ルーブリックの提示**<br>○　「敦盛の最期」の範読を聞く。 | 【知・技】<br>・作品の特徴を生かして朗読するなどして古典の世界に親しんでいる。<br>（観察、ワークシート） |
| 2 | ◆「敦盛の最期」を読み、敦盛の人物像を捉えよう。<br>○　「敦盛の最期」を音読する。<br>○　敬語表現をヒントにせりふの発言者を確認する。<br>○　敦盛の『直実に対して名乗らなかった」『ただとくとく首をとれ。』と発言した」点に着目して、敦盛の人物像を読み取る。 | 【思・判・表】<br>・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。<br>（観察、ワークシート） |
| 3 | ◆「敦盛の最期」を読み、直実の人物像を捉えよう。<br>○　「敦盛の最期」を音読する。<br>○　「直実が出家したいという気持ちを深めたのはなぜか」という問いを通して、直実の人物像や心情の変化を読み取る。 | 【思・判・表】<br>・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。<br>（観察、ワークシート） |
| 4・5 | ◆班で協力して、朗読の台本をつくろう。<br>○　前時までの学習内容を確認する。<br>○　Teams の共同編集機能を活用して、班で朗読の台本を作成する。<br>○　班での朗読をタブレットで録画し確認しながら、よりよい朗読になるよう工夫する。<br>**★ＩＣＴの活用** | 【思・判・表】<br>・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。<br>（観察、ワークシート）<br>【態度】<br>・進んで「平家物語」を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしている。（観察、台本） |
| 6 | ◆朗読発表会をしよう。<br>**★パフォーマンス課題（朗読・ワークシート）**<br>○　班ごとに朗読を発表し合う。<br>○　朗読を通して学んだことを振り返る。 | 【知・技】<br>・作品の特徴を生かして朗読するなどして古典の世界に親しんでいる。<br>（観察、ワークシート）<br>【思・判・表】<br>・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。<br>（朗読、ワークシート）<br>【態度】<br>・進んで「平家物語」を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりしている。（観察、台本） |

### 共同研究員会議の様子



# Ⅴ　研究のまとめ

## 1　今年度の研究の成果と課題

### ⑴　パフォーマンス課題について

○　ＩＣＴを効果的に活用して、パフォーマンス課題を単元の早い段階で提示することで、子どもが毎時間の授業でどのようなことができればいいのか、学んだことをどのように活用すればいいのかという点をより的確に理解した上で取り組むことができ、「深い学び」につながった。

○　パフォーマンス課題において、身近な事例に関連付けたりや自分事とつなげたりすることで、必要感をもち意欲的に学びに向かう姿につながった。

●　パフォーマンス課題の内容精査に課題が残った。また、パフォーマンスの選択により、子どもがもつ本来の力が発揮されづらいことがあった。

●　表現する力は個人差が大きい。子どもの実態に応じて子どもの姿や成果物などをイメージし、「書くこと」への手立てが必要であるだろう。

### ⑵　ルーブリックの活用について

○　ルーブリックの提示により、ゴールが明確になり、毎時間の授業での知識を相互に関連付けて考えるなど、深く理解しようとする子どもの姿が見られた。

○　単元の途中で目標を再確認する際や、パフォーマンス課題に取り組む際に、ルーブリックを効果的に活用することで、より深い理解を目指す姿が見られた。

●　子どもの実態に応じて、ルーブリックの表現をより分かりやすい表現にする必要があった。

●　ルーブリックを作成する際に、子どもの解答を予想するなど、具体的にイメージしながら表現する必要があった。

## 2　2か年の研究の成果と課題

○　パフォーマンス課題とルーブリックを活用する学習活動に繰り返し取り組むことで、子どもが「何を学ぶのか」という目標をより明確に捉えることができるようになるとともに、成果物等から学びの深まりが見られるようになった。

○　パフォーマンス課題を設定することで、「深い学び」に向かう子どもを育むだけでなく、ペーパーテストだけでは見取ることが難しい「思考・判断・表現」の観点を見取ることができ、成果をフィードバックすることで、学びの実感にもつなげることができた。

○　ＩＣＴ機器を活用することで、学習内容の共有が、時間、場所、人数に制約されず、自由に行える点で効果的であり、学習内容のより深い理解につながった。

●　パフォーマンス課題の設定に難しさが感じられているが、繰り返し取り組み、工夫を凝らすことで、より活用しやすいものになるとよいだろう。

●　教科の特性や子どもの発達段階によって、ルーブリックの有効性に差が見られた。特に、子どもの実態に応じて、伝わりやすい文言にする必要がある。

# Ⅵ　共同研究員紹介／参考・引用文献

## 十勝管内教育研究所連絡協議会共同研究員

| 市町村 | 共同研究員名 | 所属（所属校） | 備　考 | 市町村 | 共同研究員名 | 所属（所属校） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 芽　室 | 大草　恵輔 | 芽室町教育研究所（芽室南小） | 推　進<br>幹　事 | 陸　別 | 山田　征洋 | 陸別町教育研究所（陸 別 中） | 推　進<br>幹　事 |
| 帯　広 | 長谷川知英 | 帯広市教育研究所（広 陽 小） | 推　進<br>副幹事 | 幕　別 | 兒玉　真一 | 幕別町教育研究所（幕 別 中） | 推　進<br>副幹事 |
| 上士幌 | 政野　里歩 | 上士幌町教育研究所（上士幌小） | 授業者 | 中札内 | 佐藤　悠樹 | 中札内村教育研究所（中札内中） | 授業者 |
| 音　更 | 日水　直樹 | 音更町教育研究所（音 更 小） | | 士　幌 | 鈴木日向子 | 士幌町教育研究所（士幌町中央中） | |
| 新　得 | 市原　秀樹 | 新得町教育研究所（新 得 小） | | 鹿　追 | 梅原　翔太 | 鹿追町立教育研究所（鹿 追 中） | |
| 清　水 | 吉田　哲朗 | 清水町教育研究所（清 水 小） | | 豊　頃 | 関谷昂二郎 | 豊頃町教育研究所（豊 頃 中） | |
| 更　別 | 岩田　浩平 | 更別村教育研究所（更 別 小） | | 浦　幌 | 松林　一彦 | 浦幌町教育研究所（浦 幌 中） | |
| 大　樹 | 齊藤　織斗 | 大樹町教育研究所（大 樹 小） | | 本　別 | 乾　　克彦 | 本別町総合教育研究所（勇 足 中） | |
| 広　尾 | 森岡　達昭 | 広尾町教育研究所（広 尾 小） | | 足　寄 | 山田　優里 | 足寄町生涯学習研究所（足 寄 中） | |
| 池　田 | 中田　和行 | 池田町教育研究所（池 田 小） | | | | | |

十勝教育研究所 杉澤　諭／野村 知未／白澤 大輔

## 参考・引用文献


○　小学校学習指導要領（平成29年3月）　文部科学省
○　小学校学習指導要領解説　総則編（平成29年７月）　文部科学省
○　小学校学習指導要領解説　算数編、理科編（平成29年7月）　文部科学省
○　小学校学習指導要領解説　（平成29年7月）　文部科学省
○　中学校学習指導要領（平成29年3月）　文部科学省
○　中学校学習指導要領解説　総則編（平成29年7月）　文部科学省
○　中学校学習指導要領解説　社会編、国語編（平成29年７月）　文部科学省
○「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　小学校　理科　国立教育政策研究所
○「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　中学校　国語　国立教育政策研究所
○「深い学び」で生かす思考ツール　小学館
○「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価　明治図書
○　Q&Aでよくわかる！「見方・考え方」を育てるパフォーマンス評価　明治図書
○　教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価　日本標準